

二商人奉食の伝説について

定方 晟

Two merchants' offer of food to the Buddha

SADAKATA Akira

Abstract

Several Buddhist texts narrate the story of two merchants who offered food to the Buddha in the seventh week after the latter had attained the enlightenment. The Buddha blessed them and they became his first lay disciples.

By the context of the texts, we can surmise that the two merchants traveled from Balkh, a city in the north Afghanistan, to Utkala, a city in modern Orissa (eastern India). It is highly doubtful that such a long journey took place in the Buddha's time, that is, in the sixth or fifth century B.C., but such travelling was not impossible around the beginning of the Christian era.

In fact, Ssu-ma Ch'ien, a famous Chinese historian, wrote in his great book *Shih-chi*, that Chang-ch'ien, officer of the Han dynasty, went near to Balkh through the central Asia around 130 B.C., that he saw some products of South-China there and that he was informed by the local people that the products had been brought from some place of the eastern India. Chang-ch'ien then thought that there must be a southern route from China to India.

The story of the two merchants, therefore, may be interesting for the students who study on the trading route of ancient India.

ブッダは村の娘が捧げた乳糜を食べて以来、何も食わずに瞑想していた。かれが悟りに達したとき、通りかかった二商人がブッダに食べ物を提供した。このとき四天王がブッダに鉢を提供した。ブッダは二商人を祝福し、かれらは最初の在家信者になった。

この物語は多くの経典に語られている。いくつかの経典によると、二商人は北方の住人で、南インドに交易に出かけ、帰りにブッダに出会った。かれらの名はトラプサ（またはトラプシャ）とバツリカといい、出かけた先はウトカラであった。これらの固有名詞はこの伝説が何等かの史的事実を含んでいることを暗示している。トラプサはアレクサンドロス大王が戦ったバクトリアの戦場の名ドラプサカに似ており、バツリカはバクトリアの都バルフを連想させる。ウトカラはインド東部のオリッサ州の別名として知られる。ブッダが悟りに達したブッダガヤ

はバクトリアとオリッサの間にある。西暦前2世紀、漢の張騫は中央アジアを経てバクトリアに赴き、そこで蜀の物産を見、バクトリアの商人からそれをインドで入手したことを聞き、中国から南まわりでインドへ抜けるルートがあることを察したという。トラプサとバツリカがバクトリアとオリッサの間を往復した商人であったことは十分ありうる。本論の目的の一つはこの史的事実の発掘に資する材料を提供することにある。

本論のもう一つの目的は、この伝説を記す文献を並べることにより、経典がどのような動機によって変化するものかを窺う材料を提供することにある。最初は仏伝の1コマにすぎなかったものが、文学的関心から、多くのエピソードが加えられていくさま、また二商人の旅の物語が、密教的関心から、旅の安全を祈願する護呪へと発展するさまが窺われるだろう。

文献の配列は原則的に成立年代の順による。律蔵の経典の伝承を先におき、本縁部のそれを後におくのは、仏伝はまず律典において戒律制定の経緯を説明するために説かれ、のちにこの部分が独立して本縁部の経典になったという想定にもとづく。2 帰依（仏と法への帰依）を記載する経典は、当然ながら、3 帰依（仏と法と僧への帰依）を記載する経典の前におく。

ラリタヴィスタラは2 帰依を記載するが、3 帰依を記載するマハーヴァストゥより後におく。理由の第1は文章のサンスクリット化が進んでいることである。ただし韻文²⁾の部分は古形を残している。理由の第2はラリタヴィスタラは（その翻訳とみられる方広大莊嚴經とともに）四天王のうち毘沙門天を特別扱いする新しい段階を示していることである。田辺勝美氏はその著『毘沙門天像の誕生』（吉川弘文館、1999）で、毘沙門天の図像上の変容とともに、経典におけるこの変化について論じている。

伝承は諸部派の中でそれぞれ独自の発展を遂げ、説かれる目的によって増広、省略、要約がおこなわれたようであるから、伝承の成立年代を決定するのは容易ではない。漢訳された順序も必ずしも経典成立の順序を示すものとは思われない。したがって、成立年代の順序といっても、あくまでも大雑把なものである。一応、次のように配列した。

- (1) Mahāvagga (略称 MVG)
- (2) 五分律
- (3) 四分律
- (4) Jātaka-Nidāna (略称 JTN)
- (5) 修行本起經
- (6) 中本起經
- (7) 太子瑞應本起經
- (8) 普曜經
- (9) Mahāvastu (略称 MVT)
- (10) 仏本行集經
- (11) Lalitavistara (略称 LV)
- (12) Lalitavistara (チベット語訳) (略称 LV(TIB))
- (13) 方廣大莊嚴經
- (14) 過去現在因果經

- (15) 大唐西域記
- (16) 筆者による(11)の和訳

諸伝承の相違を比較しやすくするために、内容による節の区分をおこなった。

- (I) 二商人奉食
- (II) 四天王奉鉢
- (III) 帰依
- (IV) 呪願（祝福）
- (V) 髪塔
- (VI) 授記

このうち（II）では特別テーマとしてII a（韻文による前文の繰り返し）、II b（牛が醍醐を出す）、II c（盆を空中に投げる）を別記した。詩句には諸文献の間の比較を容易にするために番号をふった。

チベット訳ラリタヴィスタラの内容はサンスクリット原文ラリタヴィスタラの内容と全同であり、Ph. Ed. Foucaux がチベット訳からおこなった仏訳(Le Lalitavistara—Développement des Jeux—, Annales du Musée Guimet, Tome VI, 1884, 二商人奉食の伝説が登場する部分は pp.317-325) は筆者の和訳にとって大変参考になった³⁾。

1. 杉本直次郎氏は Th. Watters, On Yuan Chwang's Travels in India, Vol. I, p. 134, n. I “The Change of Shên-tu into T'ien-tu may point to a Burmese pronunciation of Sindu as Thindu.”を引いて、漢代の史書に見える「天竺」「天毒」「天竺」はビルマ経由で中国に伝わったインドの呼び名の表記と考える。杉本直次郎『東南アジア史研究 I』巖南堂書店、昭和31年、pp.668-670。

また、平凡社世界大百科事典「ビルマルート」の項によると、ラングーンーラシオー保山ー昆明のルートがあり、ローマの使節がこれを利用したという。

なお、バクトリアをさす魏書の表記「薄提」はアヴェスターの *Bakhti* に近い。

2. 韻律には śloka [8-8-8-8] や upajāti [11-11-11-11] が用いられている。
3. 外園幸一氏がその著『ラリタヴィスタラの研究』上巻、大東出版社、1996でラリタヴィスタラを和訳しているが、二商人奉食の伝説を含むであろう下（中？）巻はまだ出版されていない。

◆ (1) Mahāvagga (Mahāvagga, ed. Senart, I.4.2-I.4.5.)

(I) tena kho pana samayena tapussabhallikā vāṇijā ukkalā taṃ desaṃ addhānamaggapaṭipannā honti. atha kho tapussabhallikānaṃ vāṇijānaṃ ñāti sālōhitā devatā tapussabhallike vāṇije etad avoca: ayaṃ mārisā bhagavā rājāyatanamūle viharati paṭhamābhisambuddho, gacchatha taṃ bhagavantam manthena ca madhupiṇḍikāya ca paṭimānetha, taṃ vo bhavissati digharattam hitāya sukhāya 'ti. //2//

atha kho tapussabhallikā vāṇijā manthañ ca madhupiṇḍikañ ca ādāya yena bhagavā ten' upasaṃkamim̐su, upasaṃkamitvā bhagavantaṃ abhivādetvā ekamantaṃ aṭṭhaṃsu, ekamantaṃ ṭhitā kho tapussabhallikā vāṇijā bhagavantaṃ etad avocum̐: paṭigaṇhātu no bhante bhagavā manthañ ca madhupiṇḍikañ ca yaṃ amhākaṃ assa dīgharattaṃ hitāya sukhāyā 'ti. //3//

(II) atha kho bhagavato etad ahosi : na kho tathāgatā hatthesu paṭigaṇhanti. kimhi nu kho ahaṃ paṭigaṇheyyaṃ manthañ ca madhupiṇḍikañ cā 'ti. atha kho cattāro mahārājāno bhagavato cetasā cetoparivitakkaṃ aññāya catuddisā cattāro selamaye patte bhagavato upanāmesum̐ : idha bhante bhagavā paṭigaṇhātu manthañ ca madhupiṇḍikañ cā 'ti. paṭiggahesi bhagavā paccagghe selamaye patte manthañ ca madhupiṇḍikañ ca paṭiggahetvā ca paribhuñji. //4//

(III) atha kho tapussabhallikā vāṇijā bhagavantaṃ onītapattapāṇiṃ viditvā bhagavato pādesu sirasā nipatitvā bhagavantaṃ etad avocum̐ : ete mayaṃ bhante bhagavantaṃ saraṇaṃ gacchāma dhammañ ca, upāsake no bhagavā dhāretu ajjatagge paṇupete saraṇaṃ gate 'ti. teva loke paṭhamaṃ upāsakā ahesum̐ dvevācika. //5//
rājāyatanakathā niṭṭhitā. //4//

◆ (2) 五分律 (大正藏22, 103a-103b) 劉宋仏陀什, 竺道生訳, AD. 424

(I) 時有五百賈客。乘五百乘車。中有二大人。一名離謂。二名波利。
二人昔善知識死為善神恒隨逐之。作是念。今仏始成大道。未有獻食者。
我今當令二人飯。使長夜獲安。即以神力車牛皆躡。衆人怖懼四向求神。
彼神於空中語言。汝等莫怖。汝等莫怖。今仏世尊初成大道。靜坐七日從定起。
遊行坐彼樹下。未有獻食者。汝奉上麩蜜長夜獲安。衆人歡喜即和麩蜜。
俱詣樹下遙見世尊。姿容挺特諸根寂定。有三十二大人之相。圓光一尋猶若金山。
前礼仏足奉上麩蜜。

(II) 世尊作是念。過去諸仏皆以鉢受。當來諸仏亦復如是。我今亦応用鉢受施。
四天王知仏意。各取一自然香淨石鉢以奉世尊。白言。惟願哀納我等此器受賈人施。
仏復惟念。若取一王鉢。不可余王意。便悉受四鉢。累左手中。右手按之合成一鉢。
以用受施。

(III) 受已語言。汝等當歸依仏歸依法。即受二自歸。是為人中二賈客最初受二自歸。

(IV) 便為説隨喜呪願之偈

二足汝安隱 四足亦安隱
去亦得安隱 還亦得安隱
如耕田有望 下種亦有望
汝今入海望 獲果亦如彼

爾時世尊説此偈已。更為賈人説種種妙法。

◆ (3) 四分律 (大正蔵22, 781c-785c) 姚秦仏陀耶舎, 竺仏念訳, AD. 408

(I) 時有二賈客兄弟二人。一名瓜。二名優波離。將五百乘車載財宝。
 去菩提樹不遠而過。時樹神篤信於仏。曾与此二賈客旧知識。欲令彼得度。
 即往至賈人所語言。汝等知不。釈迦文仏如来等正覚。於七日中具足諸法。
 於七日中未有所食。汝等可以蜜麴奉獻如来。令汝等長夜得利善安隱快樂。
 爾時兄弟二人。聞樹神語已歡喜。即持蜜麴往詣道樹。遙見如来顔貌殊異。
 諸根寂定最上調伏。如被調象無有卒暴。如水澄靜無有塵穢。見已発歡喜心。
 於如来所前至仏所。頭面礼足在一面立。時二人白世尊言。今奉獻蜜麴慈愍納受。
 (II) 時世尊復作如是念。今此二人奉獻蜜麴。当以何器受之。復作是言。
 過去諸仏如来至真等正覚。以何物受食。諸仏世尊。不以手受食也。時四天王立在左右。知仏所
 念。往至四方。各各人取一石鉢。奉上世尊。白言。願以此鉢。受彼賈人麴蜜。
 時世尊慈愍故。即受四天王鉢。令合為一。受彼賈人麴蜜。

(IV) 受彼賈人麴蜜已。以此勸喻。而開化之。即呪願言

所為布施者 必獲其利義

若為樂故施 後必得安樂

(III) 汝等賈人。今可帰依仏帰依法。即受仏教言。大徳。我今帰依仏帰依法。
 是為優婆塞中最初受二帰依。是賈客兄弟二人為首。

(V) 時二賈人白仏言。我今從此欲還本生處。若至彼間当云何作福。

何所礼敬供養。時世尊知彼至意。即与髮爪語言。汝等持此往彼作福礼敬供養。
 時賈人雖得髮爪。不能至心供養言。此髮爪世人所賤除棄之法。云何世尊持与我等供養。
 時世尊知賈人心中所念。即語賈人言。汝等莫於如来髮爪所生毛髮許懈慢心。
 亦莫言世人所賤。云何如来使我供養。賈人当知。

[ここに髮の功德を説く大量の挿入文がある。神々が如来の髮を祀ること。弥却が定光仏
 のために地面に自分の髮を延べ、仏はその髮を讃え、人々がその髮を花や香で供養するこ
 と。] (大正蔵22, 782a-785c)

賈人当知。学菩薩道。能供養爪髮者必成無上道。以仏眼觀天下。
 無不入無余涅槃界而般涅槃。況復無欲無瞋恚無痴。施中第一。為福最尊。
 受取中第一。而無報応也。爾時賈人兄弟二人。即從座起復道而去

◆ (4) Jātaka-Nidāna (ed. Fausbøll, Vol. I, pp.80-81.)

(I) tatth' eva rājāyatanamūle nisīdi. tasmiṃ samaye tapassubhallukā nāma dve
 vāṇijā pañcahi sakaṭasatehi ukkalā janapadā majjhimadesaṃ gacchantā
 attano ñātisālohitāya devatāya sakaṭāni sannirumhitvā satthu āhāra sampādane
 ussāhitā manthaṇ ca madhupiṇḍikaṇ ca ādāya "patigaṇhātu no bhante bhagavā
 imaṃ āhāraṃ anukampaṃ upādāyā" 'ti

(II) satthāraṃ upasaṃkamitvā aṭṭhaṃsu. bhagavā pāyāsaṃ paṭiggahaṇa divase
 yeva pattassa antarahitattā "na kho tathāgatā hatthesu patigaṇhanti, kimhi

nu kho ahaṃ patigaṇḥeyyan” ti cintesi. ath’ assa cittaṃ ñatvā catuhi disāhi cattāro mahārājāno indanilamaṇimaye patte upanāmesuṃ. bhagavā te paṭikkhipi. puna muggavaṇṇasalamaye cattāro patte upanāmesuṃ. bhagavā catunnam pi devaputtānaṃ anukampāya cattāro patte paṭiggahetvā uparūpari ṭhapetvā “eko hotū” ’ti adhiṭṭhahi. cattāro pi mukhavaṭṭiyaṃ paññāyamānalekhā hutvā majjhimena pamāṇena ekattaṃ upagamimsu. bhagavā tasmīṃ paccagghe selamaye patte āhāraṃ patigaṇhitvā paribhuñjitvā anumodanaṃ akāsi.

(III) dve bhātaro vāṇijā buddhañ ca dhammañ ca saraṇaṃ gantvā dhevācikaupāsakā ahesuṃ.

(V) atha tesāṃ “ekaṃ no bhante paricāritabbaṭṭhānaṃ dethā” ’ti vadantānaṃ dakkhiṇahatthena attano sīsaṃ parāmasitvā kesadhātuyo adāsi. te attano nagare tā dhātuyo anto pakkhipitvā cetiyaṃ patiṭṭhāpesuṃ.

◆ (5) 修行本起經（大正藏 3，472b.）後漢康孟詳訳，AD. 197

(I) 是時仏在摩竭提界善勝道場貝多樹下。徳力降魔。覺慧神静。三達無礙。度二賈客。提謂波利。

(III) 授三自帰。及与五戒。為清信士。

◆ (6) 中本起經（大正藏 4，147c.）後漢康孟詳訳，AD. 207

(I) 一時仏在摩竭提界善勝道場元吉樹下。徳力降魔。覺慧神静。三達無礙。度二賈客。提謂波利。

(III) 授三自帰。然許五戒。為清信士。

◆ (7) 太子瑞応本起經（大正藏 3，479a-479b.）吳支謙訳，AD. 223-253

(I) 仏定意七日。不動不揺。樹神念仏。新得道快坐七日。未有献食者。我当求人令飯仏。時適有五百賈人。從山一面過。車牛皆躓不行。中有兩大人。一名提謂。二名波利。怖還与衆人俱詣樹神請福。神現光像言。今世有仏。在此優留国界尼連禪水辺。未有献食者。汝曹幸先能有善意。必獲大福。賈人聞仏名。皆喜言。仏必独大尊。天神所敬。非凡品也。即和麴蜜。俱詣樹下。稽首上仏。

(II) 仏念先古諸仏哀受人施法皆持鉢。不宜如余道人手受食也。時四天王。即遙知仏当用鉢。如人屈申臂頃。俱到頰那山上。如意所念。石中自然出四鉢。香浄潔無穢。四天王各取一鉢。還共上仏。願哀賈人。令得大福。方有鉄鉢。後弟子当用食。仏念取一鉢不快余三意。便悉受四鉢。累置左手中。右手按之。合成一鉢。令四際現。仏受麴蜜。

(III) 告諸賈人。汝当帰命於仏。帰命於法。方有比丘衆。当預自帰。即皆受教。各三自帰。

(IV) 仏起於異處食畢。呪願賈人言。

今所布施。欲使食者。得充氣力。当令施家。

世世得願。得色得力。得瞻得喜。安快無病。

終保年寿。諸邪惡鬼。不得燒近。以有善意。
立德本固。諸善鬼神。常当擁護。開示道地。
得利諸偶。不使迍蹇。無復艱患。人有正見。
以信喜敬。潔淨不悔。施道德者。福德益大。
所随轉勝。吉無不利。日月五星。二十八宿。
天神鬼王。常随護助。四天大王。賞別善人。
東提頭賴。南維睽文。西維樓勒。北拘均羅。
当護汝等。令不遭橫。能有慧意。研精學問。
敬仏法衆。棄捐衆惡。不自放恣。現受吉祥。
種福得福。行道得道。以先見仏。一心承奉。
当為從是。致第一福。現世獲祐。快解見諦。
富樂長寿。自致泥洹。

◆ (8) 普曜經 (大正藏 3, 526b-527a.) 西晋竺法護 (太子瑞應本起經に似る), AD. 308

(I) 爾時提謂波利之等与賈人俱五百為侶。於時樹木華実茂盛演仏之音。七日不動不揺。時有梵天厥名識乾。住于梵天。見仏新得道快坐七日未有獻食者。我当求人令飯上仏即使五百賈人皆躓不行。識乾先世五百賈人之知識也。欲度之故。故使然矣。提謂波利怖還与衆人共議。天即時而讃偈言

如来成仏道 所願已具足
汝等貢上食 因是転法輪

時五百人詣樹神所。梵作樹現光光像分明言。今世有仏在拘留国界尼連禪水辺。未有致食者。汝曹幸先能有善意必獲大福。賈人聞仏名皆大喜言。仏必独大尊天神所敬非凡品也。即和麴蜜俱於樹下稽首上仏。

(II) 仏念先古諸仏哀受人施法皆持鉢。不宜如余道人手受食也。時四天王於頗那山上。得四枚青石之鉢欲於中食。時有天子。名曰照明。謂天王曰。今者有仏。名釈迦文。応用斯鉢。非仁之器。今当受食。可往奉之。於是四王則与天子。華香伎樂幡蓋并鉢。如屈伸臂頃俱下。詣仏四天王各取所持之鉢共貢上仏。仏念取一不快余人。意当悉納之。提頭賴王先以獻仏。仏即受之。而為説偈言

今授世尊器 当獲尊法器
自得寂然鉢 心意無忘失

時毘留勒王。次復奉鉢。仏尋受之。而説偈言

若授如来器 其心未曾妄
四天安護 乃至清涼覺

時毘留羅叉王。次復奉鉢。仏尋受之。而説偈曰

其施清浄器 浄心授如来
身心常輕便 天竜神所嘆

時毘沙門王。次復奉鉢。仏即受之。而説偈曰

仏戒無缺漏 授完牢之器

信施無乱心 使德無缺減

仏受鉢已。累左手中以右手按上。即合成一令四際現。而復嘆曰

吾前世施鉢 故有是果報

今獲斯四器 四王神足致

仏歎偈已。即以其鉢。受賈麁蜜。

(IV)呪願賈人言。

今所布施。欲令食者。得充氣力。当令施家。

世世得願。得色得力。得瞻得喜。安快無病。得辯才慧。

終保年寿。衆邪惡鬼。不得燒近。以有善意。

立德本故。諸善鬼神。常当擁護。開示道地。

得利諧偶。不使迤蹇。無復難患。人有見正。

以信喜敬。淨潔不悔。施道德者。福德蓋天。

所致輒勝。吉無不利。日月五星。二十八宿。

天神鬼王。常随護助。四天大王。賞別善人。

東提頭賴。南維睽文。西維留勒叉。北拘鉤羅。

当護汝等。令不遭橫。能有慧意。研精學問。

敬仏法衆。棄捐衆惡。不自放恣。終受吉祥。

種福得福。行道得道。以先見仏。一心奉承。

当為從是。致第一福。現世獲祐。快解見諦。

常受富樂。自致泥洹。

(II c)聞呪願已。皆發無上正真道意。仏食畢竟擲鉢虚空。有天子名善梵。即接取之無罣礙。鉢
賁上梵天。億千梵天皆共供養右繞奉事。

(VI)於是世尊無等倫德歎其功勳。以是德本。於將來世。諸賈客等当得作仏。名曰蜜成如来至真
等正覺明行成為善逝世間解無上士道法御天人師為仏世尊。於時導師授無限決。然後化於無數菩
薩。受其決者在於仏道而不退轉。聞仏授決欣然踊躍。

(III)時諸兄弟叉手自歸。共持身命奉上如来。

◆ (9) Mahāvastu (ed. Senart, pp.303-313.) 誤植と思われるものもそのままローマ字転写
する。二種のダンダについても同様。

(I) uttarāpathe ukkalāṃ nāmādhīṣṭhānaṃ/tato ukkalāto adhiṣṭhānāto trapuso

ca bhalliko ca nāma sārthavāhā āḍhyā mahāḍhanā mahābhogā puṇyavanto

mahāparivārā dakṣiṇāpathāto paṃcahi dhuraṣātehi tena mārgēṇa āgacchanti//

teṣāṃ maṅgaliyānāṃ balivardānāṃ puṇḡavā eko sujātāye nakṣatre jātako aparo

kīrtike/teṣāṃ evaṃ nakṣatrāṇāṃ nāmena sujātakīrtikanāmena jñāyanti//

sarvasya sārthavāhasya purato sārthavāhasya yānakaṃ vahanti/yatra mārgē

kiṃcidbhayo bhavati siṃhabhaya vyāghrabhaya dvīpibhayaṃ vā gaṇḍakabhayaṃ vā

hastibhayaṃ vā vanadevabhayaṃ vā udakavāhabhayaṃ vā caurabhayaṃ vā tatra te
na gacchanti tataḥ te vāṇijakā jānanti bhayaṃ bhaviṣyatīti tathā saṃharitvā
caturdiśaṃ pradhāvanti samantena avaloketvā//

te dāni balivardā sujātakīrtikā tahiṃ kṣīrikāvanakhaṇḍaṃ cānuprāptā/atra
trapuṣabhalliyānāṃ ca vāṇijānāṃ pūrvajñātisāloHITEHI devabhūTEHI tahiṃ
kṣīrikāvanakhaṇḍe ṛddhiye nigṛhītā na śakronti gantum//

tehi stHITEHI sarve te puruṣā sārthāto bhītā tatra saṃnaddhā//
teṣānte devatā pūrvajñātisālohitā antarīkṣagatā ghoṣaṃ udirayensuḥ śabdam
anuśrāvayensuḥ//

mā bhāyatha vāṇijā tti na bhavati vo upadravaṃ/eṣa buddho bhagavān iha
vanaṣaṇḍe prativasati saptahi asaṃkhyeyakalpehi prādurbhūtaḥ bahujanahitāya
bahujanasukhāya lokānukampāya mahato janakāyasyārthāya hitāya sukhāya devānāṃ
ca manuṣyāṇāṃ ca tasyādyā saptasaptāhaṃ ekūnapaṃcāśad divasā anāhārasya/
tam āhāreṇa pratimānetha tato vaḥ aprameyaṃ kuśalamūlaṃ bhaviṣyati//

tehi dāni trapuṣabhallikehi vāṇijehi tānaṃ devatānāṃ vacanaṃ śrutvā
madhusarpisaṃyuktaṃ tarpaṇaṃ gṛhītaṃ/te devatā teṣāṃ vāṇijakānāṃ purato
gacchanti/ito āgacchatha//

te dāni vāṇijā tehi devatehi bhagavato sakāśaṃ upanītā//

te taṃ madhutarpaṇaṃ gṛhya bhgavantam upasaṃkrāntā/imāṃ bhagavan
madhutarpaṇaṃ paribhūṃjatu asmākam anugrahārthaṃ//

(II) atha khalu bhagavato etad abhūṣi//

kiṃ nu khalu purimakā samyaksambuddhā bhājanapratigrāhakā utāho
pāṇipratigrāhakā bhājanapratigrāhakā samyaksambuddhā ti//

saha cittotpādenaiva bhagavataḥ catvāri mahālokapālā catvāri suvarṇapātrāṇy
ādāya bhagavantam upasaṃkrāntā ratanapātrā ti kṛtvā na pravrajitasārūpyāni
bhagavāṃ na pratigrhṇāti//

te dāni rūpyāmayāni pātrāṇy ādāya bhagavantam upasaṃkrāntā/tān api bhagavāṃ
ratanapātrāṇīti kṛtvā na pratigrhṇāti//

evaṃ muktāmayāni vaidūryāmayāni sphaṭikamayāni musāragalvamayāni
lohitikāmayāni tān api bhagavāṃ ratnapātrāṇīti kṛtvā na pravrajitasārūpyāṇīti
kṛtvā na pratigrhṇāti//

te dāni catvāro śailapātrāṇi ādāya bhagavantam upasaṃkrāntā//

atha khalu bhagavataḥ etad abhūṣi/yad aham ekasya lokapālasya pātraṃ
pratigrhṇīṣyāmi trayāṇāṃ bhaviṣyati cittasyānyathātvaṃ//

bhagavatā sarveṣāṃ caturṇāṃ lokapālānāṃ catvāri pātrāṇi pratigrhṇitvā
aṃguṣṭhena ākrāntā ekapātro ca adhiṣṭhito/te dāni catvāro pātrā ekaṃ pātraṃ
saṃjātā sarveṣāṃ caturṇāṃ pātrāṇāṃ catvāri pātrakoṭīni dṛśyanti/tatra bhagavatā

trapusabhallikānām vāṇijānām madhutarpaṇam paribhuktaṃ//

(IV) bhagavām dāni trapusabhallikānām vāṇijānām madhutarpaṇam pītvā pratyagra-
 praṇītavarṇagandharasopetaṃ dakṣiṇām ādiśati//
 anekākārasaṃpannam tarpaṇanti pravuccati/
 varṇena caiva saṃpannam gandhena ca rasena ca//
 pratyagram ca praṇitam ca eṣaṇiyam ca kalpiyam/
 tarpaṇam prathamam śāstu adensuḥ trapusabhalliyā//
 madhusarpisaṃyuktaṃ taṃ pibe ca puruṣottamaḥ/
 tehi saṃtarpito viro pratisaṃlāna utthito/
 tarpaye dharmavṛṣṭiye devagandharvamānuṣām//
 diśe sovattthikaṃ divyam maṅgalyam cārthasādhakam/
 yaṃ śrutvā sumanā sarve sarvārtham sādhaiṣyati//
 svasti vo dvipade bhotu svasti vo stu catuṣpade/
 svasty astu vrajatām mārga svasti pratyāgateṣu ca//
 svasti rātrau divā svasti svasti madhyamā dine sthite/
 sarvatra svasti vo bhotu mā ca pāpam saṃāgamat//
 śirī vo dakṣiṇe skandhe śirī vāme pratiṣṭhitā/
 śirī vo aṅgam aṅgeṣu māleṣu supraṭiṣṭhitā//
 bhadram vo bhadraśirī vo vāṇijā bhadram astu vo/

[East] 本經典の四方呪願の文の構成は不揃いである。LV の偈との対応が明白なものは LV の偈の番号をつけておく。

- (1) yena kenacit kāryeṇa gacchatha purimām diśām//
 nakṣatrāṇi vo pārentu ye tām diśam adhiṣṭhitā/
- (2) kṛttikā rohiṇī caiva mṛgārdṛā ca punarvasu//
 puṣyam ca varanakṣatram aśleṣā bhoti saptamā//
- (3) ity ete sapta nakṣatrā lokapālā yaśasvinaḥ/
 ādiṣṭā purime bhāge eteṣām purimā diśā//
- () ete vo adhipārentu bhūmīye bhavanena ca/
 kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgame//
- (6) labdhārthā ca nivartetha tehi nakṣatrehi rakṣitā//
 purastime diśobhāge aṣṭa devakumārikā/
- (7) nandottarā nandisenā nandinī nandirakṣitā//
 jayanti vijayanti ca siddhārthā aparājitā/
- (4) teṣām adhipatī rājā dhṛtarāṣṭro ti nāmataḥ//
 gaṃdhavarvādhipatī rājā devehi sa ca rakṣitaḥ/
- () so pi vo abhipāletu bhūmīye bhavanena ca//
 kṣemā ca vo diśo bhontu mā ca vo pāpam āgamī/

- (8) labdhārthā ca nivartetha sarvadevehi rakṣitā//
purimasmim diśobhāge cāpalam va nāma cetiyam/
() nityam jvalati tejena nityam satyopayācanam/
so pi vo abhipāletu bhūmiye bhavanena ca//
- (10) kṣemā ca vo diśo bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
labdhārthā ca nivartetha sarvacetiyasurakṣitā//
[South]
- (1) yena kenacid arthena gacchatha dakṣiṇām diśam/
nakṣatrāṇy abhipāletu ye tām diśam adhiṣṭhitā//
- (2) maghā cobhe ca phālgunṇyau hastā citrā ca paṃcamā/
svātī caiva viśākhā ca eteṣām dakṣiṇā diśā//
- (3) ity ete sapta nakṣatrā lokapālā yaśasvinaḥ/
ādiṣṭā dakṣiṇe bhāge eteṣām dakṣiṇā diśā//
- () te pi vo abhipāletu bhūmiye bhavanena ca/
kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
- (6) labdhārthā ca nivartetha tehi nakṣatrehi rakṣitā//
dakṣiṇasmim diśobhāge aṣṭa devakumāriyo/
- (7) lakṣmīmatī śrīmatī yaśomatī yaśodharā//
śubheṣṭhitā suprabhātā suviśuddhā suvyākṛtā/
() tā pi vo abhipāletu bhūmiye bhavanena ca//
kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
- () labdhārthā ca nivartetha devakanyāhi rakṣitā//
- (4) tāsām adhipatī rājā virūḍhako ti nāmataḥ/
kumbhāṇḍadhipatī rājā yamena saha rakṣatu//
- () kṣemā ca vo diśo bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
- (8) labdhārthā ca nivartetha kumbhāṇḍehi surakṣitā//
dakṣiṇasmim diśobhāge abhipaśyam nāma cetiyam/
() nityam jvalati tejena nityam satyopayācanam/
so pi vo abhipāletu bhūmiye bhavanena ca//
- (10) kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
labdhārthā ca nivartetha cetiyena surakṣitā//
[West]
- (1) yena kenacid arthena gacchatha paścimām diśam/
nakṣatrā vo bhipāletu ye tām diśam adhiṣṭhitā//
- (2) anurādhā ca jyeṣṭhā ca mūlaś ca dṛḍhavīryavān/
ubhe āṣāḍhe bhijic ca śravaṇā bhavati saptamī//
- () te pi vo abhipāletu bhūmiye bhavanena ca/

- kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
(6) labdhārthā ca nivartetha tehi nakṣatrehi rakṣitā//
paścimasmiṃ diśobhāge aṣṭau devakumāriyo/
(7) alaṃbuṣā miśrakeśī ariṣṭā suprabhāyakā//
..... kṛṣṇā śukrā ca draupadī/
() tā pi vo abhipāletu ārogyena śivena ca//
kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
labdhārthā ca nivartetha devakanyāhi rakṣitā//
(4) tāsām adhipatī rājā virūpākṣo ti nāmataḥ/
sa vo nāgādhipo rājā varuṇena saha rakṣatu//
() so pi vo abhipāletu bhūmiye bhavanena ca/
kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
(8) labdhārthā ca nivartetha sarvanāgehi rakṣitā//
paścimasmiṃ diśobhāge asto nāmena parvato/
() āvarto candrasūryāṇaṃ asto arthaṃ dadātu vo//
so pi vo abhipāletu bhūmiye bhavanena ca//
(10) kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
labdhārthā ca nivartetha sarve astena rakṣitā//
[North]
(1) yena kenacid arthena gacchatha uttarāṃ diśāṃ/
nakṣatrā vo bhipāletu ye tāṃ diśāṃ adhiṣṭhitā//
(2) dhaniṣṭhā śatabhiṣā caiva ubhau proṣṭhapadā pi ca/
revaty athāśvinī caiva bharaṇī bhavati saptamī//
() tā pi vo anupāletu bhūmiye bhavanena ca/
kṣemā ca vo diśo bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
(6) labdhārthāś ca nivartetha tehi nakṣatrehi rakṣitā//
uttarasmiṃ diśobhāge aṣṭau devakumāriyo/
(7) ilā devī surā devī pṛthivī padumāvatī//
āśā śraddhā hirī ca śrī samāgatā/
() tā pi vo abhipāletu bhūmiye bhavanena ca/
kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
() labdhārthāś ca nivartetha devakanyāhi rakṣitā//
(4) tāsām adhipatī rājā kuvera iti nāmataḥ/
sarvayakṣādhipo rājā rākṣasihi saha rakṣatu//
() so pi vo abhipāletu bhūmiye bhavanena ca/
kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
(8) labdhārthāś ca nivartetha yakṣarākṣasarakṣitā//

uttarasmiṃ diśobhāge kailāso nāma parvataḥ/
 () āvāso yakṣasaṃghānāṃ rākṣasānāṃ niveśanaṃ//
 so pi vo abhipāletu bhūmiye bhavanena ca/
 (10) kṣemā ca vo diśā bhontu mā ca vo pāpam āgamī/
 labdhārthāś ca nivartetha yakṣarākṣasarakṣitāḥ//
 [Recapitulation]
 (1) aṣṭāviṃśati nakṣatrā saptasapta caturdiśaṃ/
 saha candramasūryehi triṃśad bhonti anūnakam//
 (1) dvātriṃśad devakanyāvo aṣṭa aṣṭa caturdiśaṃ/
 catvāraś ca mahārājā lokapālā yaśasvinaḥ/
 prajvalamānavarṇena rakṣanti te caturdiśaṃ//
 (2) aṣṭa śramaṇā brāhmaṇā aṣṭa janapadeṣu kṣatriyā/
 aṣṭa saindrakā devā sadā rakṣāṃ karontu vaḥ//
 (III) teṣāṃ dāni bhagavatā trīṇi śaraṇagamanāni dinnāni/gacchatha buddhaśaraṇaṃ
 gacchatha dharmaśaraṇaṃ gacchatha anāgataṃ ca bhagavato śrāvakaśaṃghaśaraṇaṃ//
 te dāni buddhaśaraṇaṃ gatā dharmaśaraṇaṃ gatā saṃghaśaraṇaṃ gatā//
 (V) te dāni āhansuḥ/vayaṃ bhagavaṃ vāṇijakā deśadeśāni ca rājyāni ca aṇvāma
 /sādhu maṃ bhagavāṃ kaṃcid dadeya dhātum yaṃ vayaṃ pūjayema//
 bhagavatā dāni teṣāṃ śīrṣāto pāṇinā keśāni otāritvā dinnāni imaṃ keśastūpaṃ
 kārayetha nakhāni ca otāritvā dinnāni imaṃ nakhastūpaṃ kārāpetha śilā ca
 āgamiṣyanti tāṃ ca śilāṃ pratiṣṭhāpetha//
 tehi dāni yatra keśasthālī nāma adhisthāno tahiṃ keśastūpaṃ kārāpitaṃ/
 vālukṣo nāma nagaraṃ tahiṃ nakhastūpaṃ kārāpitaṃ/śilukṣaṃ nāmādhiṣṭhānaṃ
 tatrāpi śilā pratiṣṭhāpitā sā bhagavatā ṛddhiye pāṇinā kṣiptā// (pp.303-310)

 tṛtiyaṃ śilāpaṭṭaṃ bhagavatā trapusabhallikānāṃ śilukṣanāmanigama āvāsītānāṃ
 tatra ṛddhiye purato utkṣiptaṃ//
 tehi taṃ śilāpaṭṭaṃ tatraiva cetiye pratiṣṭhāpitaṃ/adyāpi gandhārarājye
 adhiṣṭhānaṃ śilānāmena jñāyati// (p.313.)

◆ (10) 仏本行集経（大正蔵 3，801a-803b.）隋闍那崛多訳，AD. 587-592

(I) 爾時世尊。從羊子種樹林起已。安庠漸至一樹林下。彼樹林名差梨尼迦（隋言出乳汁林）。到彼林已。結加趺坐。經於七日。為欲受彼解脫樂故。爾時世尊。經七日後。正念正知。從三昧起。如是世尊。經七七日。以三昧力。相續而住。然彼善生村主之女。布施乳糜。一食已後更不別食。至今活命。

爾時彼處。從北天竺。有二商主。一名帝（當梨反）梨富婆（隋言胡瓜）二名跋梨迦（隋言金挺）彼二商主。有多智慧。心細意正。彼二商主。從中天竺依土所出。種種貨物。滿五百車。大

得宜利。從中欲還北天竺國。時彼路經差梨尼迦林外不遠。次第而行。彼等商主。別有一具調伏之牛。恒在先行。若前所有恐怖之處。而彼一具調善之牛。如打枷縛駝不肯行。爾時彼處差梨尼迦所護林神。彼神隱身。密捉持是二調牛。住不聽前過。彼二商主。各持優鉢羅花之茎。打二調牛。猶不肯行。其余所駕五百車牛。皆不肯動。其諸車輪。並不復轉。其皮鞵索。悉皆自斷。其余輾輻輳輻箱輞欄板鞅鞅勾心。或折或破。或碎或裂。如是變怪種種不祥。

爾時帝梨跋梨迦等。心生恐怖。皆大憂惱。身諸毛孔。皆悉遍豎。各相謂言。我等今者值何怪禍。遇何災殃。各各去車兩三步地。頭戴十指合掌頂禮一切諸天。一切諸神。至心而住。作如是言。乞願我等今者所有災怪殃咎。恐怖早滅。安隱吉利。

爾時彼林所守護神。現自色身。慰勞彼等諸商主言。汝等商人。勿生恐怖。汝等此處。無一災禍。無一諸殃。不須怖畏。諸商主等。此處唯有如來世尊阿羅呵三藐三佛陀。初始成仏無上菩提。今日在此林內而住。但是如來。得道已來。經今足滿四十九日。未曾得食。汝等商主。今若知時。可共往詣向彼世尊多陀阿伽度阿羅呵三藐三佛陀所。最宜在前。將麁將酪蜜揣奉彼。汝等當得長夜安隱安樂大利。

時二商主。聞彼林神如是言已。即白神言。如神所教。我等不違。而彼二商。即各將麁酪蜜和揣。共諸商人。往詣仏所。即到彼已。時二商主。遙見世尊。可憐端正。世間無比。乃至猶如虛空衆星。莊嚴身體諸相。見已心大敬重。清淨信向。至世尊前。到已即便頂礼仏足。却住一面。時二商主。共白仏言。世尊願為我等。受此清淨麁酪蜜揣愍我等故。

(II)爾時世尊。如是思惟。往昔一切諸仏世尊阿羅呵三藐三佛陀。悉皆受持鉢器以不。爾時世尊。內生知見。即知過去一切諸仏多陀阿伽度阿羅呵三藐三佛陀一切盡皆受持鉢器。是時世尊。復如是念。我今當以何器而受二商主食麁酪蜜揣。世尊欲受。發此心已。時四天王各從四方。速疾共持四金鉢器。往詣仏所。到已各各項礼仏足。却住一面。而四天王。却住立已。將四金鉢。奉上世尊。作如是言。唯願世尊。用此鉢器。受二商主麁酪蜜揣。愍我等故。我等長夜當得大利大樂大安。世尊不受。以出家人不合畜此。彼四天王。捨四金鉢。將四銀鉢。奉上世尊。作如是言。世尊。可於此器受食。略説乃至。為我當得大利大安。世尊不受。如是更將四頗梨鉢。而亦不受。如是更將四琉璃鉢。而亦不受。如是更將四赤珠鉢。而亦不受。次復更將四瑪瑙鉢。而亦不受。次復更將四車渠鉢。奉上世尊。如來亦復不為其受。爾時北方毘沙門王。告於諸余三天王言。我念往昔。青色諸天。將四石器。來奉我等。白我等言。此石器內。仁等。可用受食而喫。

爾時別有一天子。名毘盧遮那。白我等言。仁等天王。慎勿於此石器之內受食而喫。仁但受持相共供養。比之如塔。所以者何。當來有一如來出世。其如來号釈迦牟尼。仁等。宜將此四石鉢。奉彼如來。仁等天王。今是時至。可將石鉢持奉世尊。

爾時四鎮四大天王。各各皆將諸親眷屬圍遶。速至自宮殿中。各執石鉢。端正可喜。其色紺青。猶如雲隊。盛以天花著滿其內。將一切香。用塗彼鉢。復持一切諸妙音声。供養彼鉢速詣仏所。到已共將四鉢奉仏。而白仏言。唯願世尊。受此石鉢。於此鉢內。受二商主麁酪蜜揣。愍我等故。各令我等長夜獲得大利安樂。

爾時世尊。復如是念。此四天王。以信淨心。奉我四鉢。我亦不合受持四鉢。若我今於一人迦受。則三人心。各各有恨。若二人迦。受於二鉢。二人心恨。若三人迦。受於三鉢。一人心恨。我今可總受此四鉢。出神通力。持作一鉢。爾時世尊。從於提頭賴吒天王迦受鉢已。而説偈言。

施善世尊好鉢盂 汝決当成妙法器

既於我辺奉淨鉢 必增智慧正念心

爾時世尊。從於毘留勒叉天王辺受鉢已。而説偈言。

我觀真如誰施鉢 彼得正念增長心

有能養育世令安 速成妙樂清淨體

爾時世尊。從於毘留博叉天王辺受得鉢已。而説偈言。

汝以淨心施淨鉢 清淨實心奉如來

當來速得清淨心 人天世間得稱意

爾時世尊。從毘沙門大天王辺受於鉢已。而説偈言。

清淨持戒仏世尊 善伏諸根施全鉢

不缺壞心殷重施 汝當來世得淨田

爾時世尊。受四鉢已。如是次第相重安置。左手受已。右手按下。神通力故。合成一鉢。外有四唇。而説偈言。

我昔功德諸果滿 以發哀愍清淨心

是故今四大天王 清淨牢固施我鉢

而有偈説。

當時世尊欲受食 諸天四方持器來

各以奉施仏如來 受已神通作一鉢

爾時世尊。於新淨潔天施鉢內。從彼北天帝梨富婆并跋梨迦（前代訳稱提謂波利〔以下略〕）二商主辺。受於麴酪蜜和之揣慈愍故受。如法而食。

(III)食已即告彼二商主及諸人言。汝商主等。來從我受歸依仏歸依法歸依僧。復受五戒。當令汝等長夜安樂獲大善利。其二商主。及諸眷屬。聞仏語已。即共白言。如仏聖教。我等不違。即便共受三自歸依。彼二商主。於人世間。最初而得三歸五戒優婆塞名。所謂帝梨富婆二商主等。

(VI)爾時世尊以二商主生隨喜故。而説偈言。

所施色味具足円 受已方便離煩惱

其中雜和多種物 是故名爲麴酪漿

嗽訖身體潤澤光 面色輝花容貌顯

氣力充實而得益 除飢渴惱心獲安

如是漿施仏世尊 令諸梵行得飽滿

我今所受已食足 是二商主奉麴揣

日種甘蔗族所生 讚嘆是人爲最上

以此布施功德故 當到聖智極果中

復得盡於諸漏辺 以因如是業行故

後更轉轉無恐怖 漸得脫於諸有纏

既入無漏得清涼 譬如良田善平正

種子穀苗悉皆好 風雨潤澤復隨時

禾稼成長自豐饒 如是皆由多種子

生已漸漸增茂盛	諸穀充溢倍多加
所収之子不可量	亦如成就諸戒行
能廣布施衆飲食	後得果報難可論
以昔成利故使然	若人欲求於後利
望其轉得饒益果	唯有供養仁智尊
当成果報妙菩提	并得善逝世間解
自己得心多種利	復能向他作法饒
彼得自益利衆生	是故名為大智者
欲得自利利一切	欲得求道導世間
應於三寶佛法僧	發心当生正信行
以信心故得果報	廣大善達信行迦
即得戒行難思議	即得最勝無上道
布施能得此勝報	觀見世界真實如
又得道智滿足充	聖者能如是正見
彼得是見名正念	散諸垢結等塵勞
証得無畏大涅槃	解脫世間一切苦
如是具足一切法	諸聖讚歎此最尊
生老病死等既無	悲苦別離皆滅尽
十力世尊嘆此樂	当得不生死處常

(IV)爾時帝梨富婆二商主等。及諸商人。共白仏言。世尊。我等諸人。今在道路。唯願世尊。為我等故。作吉祥願。当令我等無有障礙速疾而至自所居国。爾時世尊。為二商主及諸商人。作吉祥願。而説偈言。

願令二足大吉利	一切四足亦大安
行路至處多吉祥	所向諸方悉如意
昼夜行坐皆慶適	日中所在亦多宜
於一切處願從心	商主商人並康健
希望子故種田作	散子既竟望収多
一切商人求利行	入海艱難採珍宝
汝等承望故行路	願所規獲利速成
我今得道快喜歡	汝隨至方皆願吉
心所欲取一切利	如汝等願速称心
行向經歷所至方	悉願無有諸障礙

(V)爾時商主。同白仏言。世尊。願乞我等一物作念。若到本郷。不見世尊。当以彼物作塔。礼拜以表憶念大聖世尊。我等諸人。供養尊重。尽今形寿。爾時世尊。即与諸商仏身髮爪以用作念。而告之言。汝等商主。此之髮爪。今持与汝。令汝作念。若見此物。与我無異。於後当更別有一石從空而下。至汝等處。汝等若見。当還起塔供養尊重。爾時帝梨二商主等。從於仏迦。受髮爪已。作如是念。此之髮爪。乃是身上所棄之物。法非勝妙。不合尊重。無供養心。

爾時世尊。知彼一切商人心已。告彼等言。汝等商主。莫作是念。我憶往昔。無量無辺。不可計劫。有一世尊。出現於世。名曰然燈如來。多陀阿伽度阿羅呵三藐三仏陀善逝世間解無上士調御丈夫天人師仏世尊。我於彼時作一婆羅門摩那婆。具足解於四毘陀論。我於爾時。見彼世尊。入於一城。城名蓮花。我於彼時。以五茎青優鉢羅花。散彼仏上。即便發於菩提之心。時彼世尊。即授我記。汝摩那婆。於未來世。時節過數阿僧祇劫。當得作仏号釈迦牟尼多陀阿伽度阿羅呵三藐三仏陀。我時於彼世尊法中。捨離居家。剃除鬚髮。而便出家。我出家後。一切諸天。取於我髮。一髮即有十億諸天。作分將行。而共供養。從彼已來。我今得成阿耨多羅三藐三菩提。以仏眼觀彼等衆生。無一衆生各在仏辺而不皆得証涅槃者。我於彼時。既未脫貪慾瞋痴。猶尚供養我之髮爪。無量衆生。千萬億數。而得涅槃。況復今日盡諸一切煩惱結惑貪慾悲痴。皆悉除滅。汝等何故不大尊重我此清淨無染髮爪。

爾時商主。及諸人等。聞於世尊說是往昔因縁之事。即於髮爪。生希有心。生大尊重恭敬之心。頭頂一心。礼世尊足。圍遶三匝。却步而行。有偈說言。

有衆商人諸方過 樹神發覺告彼言

此有自利得世尊 汝等頂礼布施食

◆ (II) Lalitavistara (ed. Lefmann, pp.381-392.) テキスト中、(V. ##) は Vaidya (Lalitavistara, pp.276-285) の修正を示す

(I) 【381, line 3】 saptame saptāhe tathāgato tārāyaṇamūle viharati sma//tena khalu punaḥ samayenottarāpathakau dvau bhrātaraḥ trapaṣabhallikanāmakau vaṇijau paṇḍitau nipuṇau vividhapaṇyaṃ gr̥hītvā mahālabdhalābhau dakṣiṇāpathād uttarāpathaṃ gacchete sma/mahatā sārthena pañcabhir dhuraśataiḥ suparipūrṇaiḥ//

tayoḥ sujātaḥ kīrtiś ca nāmājāneyau dvau balivardhāv āstām/nāsti tayor lagnabhayaṃ/yatrānye balivardhā na vahanti sma/tatra tau yujyete sma/yatra cāgrato bhayaṃ bhavati sma/tatra tau kilabaddhāv iva tiṣṭhete sma/na ca tau pratodena vāhyete sma/utpalahastakena vā sumanādāmakena vā tau vāhyete sma//teṣāṃ tārāyaṇasamīpe kṣīrikāvananivāsiniḍevatādhiṣṭhānāt te śakaṭaḥ sarve viṣṭhitā na vahanti sma/varatrāḍīni ca sarvaśakaṭāṅgāni ca chidyante sma/bhidyante ca/śakaṭācakraṇi ca nābhīpariyantaṃ bhūmau nimagnāni sarvaprayatnair api te śakaṭā na vahanti sma//te vismitā bhītāś cābhūvan/kiṃ nu khalv atra kāraṇaṃ ko 'yaṃ vikāro yad ime sthale śakaṭa viṣṭhitāḥ/tais tau sujātakīrtibalivardhau yojitau/tāv api na vahete sma/sotpalahastena ca sumanādāmakena ca vāhyamānau//teṣāṃ etad abhavat/asaṃśayaṃ purataḥ kiṃcid bhayaṃ yenaitāv api na vahataḥ/tair aśvadūtāḥ purataḥ preṣitāḥ/aśvadūtāḥ pratyāgatāḥ prāhur nāsti kiṃcid bhayaṃ iti//tayāpi devatayā svarūpaṃ saṃdarśya āśvāsītā mā bhetavya【382】m iti/tāv api ca balivardhau yena tathāgatas tena śakaṭa prakarṣitau//yāvat te paśyanti sma tathāgataṃ vaiśvānaram iva pradīptaṃ dvātriṃśan-mahāpuruṣalakṣaṇaiḥ samalaṃkṛtaṃ acirotitaṃ iva dinakaraṃ śrīyā dedīpyamānaṃ/dr̥ṣṭvā ca te vismitā babhūvuḥ/kiṃ nu khalv ayaṃ brahmā ihānuprāpta utāho śakro devendra utāho vaiśravaṇa utāho sūryacan-

dro vā utāho kiṃcid giridevataṃ vā nadidevataṃ vā//tatas tathāgataḥ kāṣāyāni vastrāṇi prakatāyati sma//tatas te āhuḥ/pravrajitaḥ khalv ayaṃ kāṣāyaśaṃvṛto nāsmād bhayam astiti/te prasādaṃ pratilabdā anyonyam evam āhuḥ/pravrajitaḥ khalv ayaṃ kālabhojī bhaviṣyati/asti kiṃcit/āhur asti madhutarpaṇaṃ likhitakāś cekṣavaḥ//te madhutarpaṇam ikṣulikhitakāś cādāya yena tathāgatas tenopasaṃkrāmann upasaṃkramya tathāgatasya pādau śirasābhivanditvā tripradakṣiṇīkṛtyaikānte tasthuḥ/ekānte sthitās te tathāgatam evam āhuḥ/pratigrhṇātu bhagavann idaṃ piṇḍapātram asmākam anukampām upādāya// (II) atha khalu bhikṣavas tathāgatasyaitad abhūt/asādhu khalv idaṃ syād yad ahaṃ hastābhyāṃ pratigrhṇīyāṃ/kasmin khalu pūrvakais tathāgataiḥ samyaksambuddhaiḥ pratigrhītaṃ pātreṇety ajñāsīt//

iti hi bhikṣavas tathāgatasya bhojanakālasamaya iti viditvā tatksaṇam eva catasr̥bhyo digbhyas catvāro mahārājā āgatya catvāri sauvarṇāni pātrāṇy ādāya tathāgatasyopanāmayanti sma/pratigrhṇātu bhagavann imāni sauvarṇāni (catvāri) pātrāṇy asmākam anukampām upādāya//tāni na śramaṇapratirūpāṇi iti kṛtvā tathāgato na pratigrhṇite 【383】 sma/evaṃ catvāri rūpyamayāni catvāri vaiḍūryamayāni sphāṭikamayāni musāragalvamayāni aśmagarbhamayāni//tataś catvāri sarvaratnamayāni pātrāṇi grhītvā tathāgatasyopanāmayanti sma/na śramaṇasya sārūpyāṇi iti kṛtvā tathāgato na pratigrhṇite sma//

atha khalu bhikṣavas tathāgatasya punar etad abhūt/evaṃ katamadvidhaiḥ pātraiḥ pūrvakais tathāgatair arhadbhiḥ samyaksambuddhaiḥ pratigrhītaṃ/śailapātrair ity ajñāsīt/evaṃ ca cittam utpannaṃ tathāgatasya//atha khalu vaiśravaṇo mahārājas tad-anyāṃs trin mahārājān āmantrayate sma/imāni khalu punar mārśās catvāri śailapātrāṇi nilakāyikair devaputrain asmabhyam dattāni/tatrāsmākam etad abhūt/eṣu vyaṃ pari-bhokṣyāma iti//tato vairocano nāma nilakāyiko devaputraḥ so 'smān evam āha/

- (1) mā eṣu bhokṣyatha bhājaneṣu dhāretime cetiya saṃmatīte/
bhavitā jinaḥ śākyamunīti nāmnā tasyeti pātrāṇy upanāmayethā//
- (2) ayaṃ sa kālaḥ samayaś ca mārśā upanāmituṃ śākyamuner hi bhājanā/
saṃgītītūryasvaranāditenā dāsyāma pātrāṇi vidhāya pūjāṃ//
- (3) sa bhājanaṃ dharmamayam hy abhedyam ime ca śailāmayabhedyā bhājanā/
pratigrahitu kṣamate na cānyaḥ pratigrahārthāya vrajāma hanta//

atha khalu catvāro mahārājāḥ svasvajanaṃpārśadyāḥ puṣpadhūpagandhamālyavilepana-tūryatādāvacarasaṃgītisaṃprabhānitena sveḥ (V. svaiḥ) svaiḥ pāṇibhis tāni pātrāṇi parigrhya yena tathāgatas tenopasaṃkrāmann upasaṃkramya tathāgatasta (V.-gatasya) pūjāṃ kṛtvā tāni pātrāṇi divyakusumapratipūrṇāni tathāgatāyopanāmayanti sma//

【384】 atha khalu bhikṣavas tathāgatasyaitad abhavat/amī khalu punaś catvāro mahārājāḥ śraddhāḥ prasannā mama catvāri śailapātrāṇy upanāmayanti/na ca me catvāri śailapātrāṇi kalpante/athaikasya pratigrhīṣyāmi trayāṇāṃ vaimanasyam syāt/yanvham

(V. yan nv aham) imāni catvāri pātrāṇi pratigṛhyaikaṃ pātram adhiṭṭheyaṃ//
atha khalu bhikṣavas tathāgato dakṣiṇaṃ pāṇiṃ prasārya vaiśravaṇaṃ mahārājaṃ
gāthayādhyabhāṣata/

- (1) upanāmayasva sugatasya bhājanaṃ tvaṃ bheṣyase (*bhaviṣyase*, Edgerton, I, p.224)
bhājanam agrayāne/

asmadvidhebhya hi pradāya bhājanaṃ smṛtir matiś caiva na jātu hīyate//
atha khalu bhikṣavas tathāgato vaiśravaṇasya mahārājasyāntikāt tatpātraṃ
pratigṛhñite sma/anukampām upādāya/pratigṛhya ca dhṛtarāṣṭraṃ mahārājaṃ
gāthayādhyabhāṣata/

- (2) yo bhājanaṃ deti tathāgatasya na tasya jātu smṛti prajña hīyate/
atināmya kālaṃ ca sukhaṃ sukhena yāvat padaṃ budhyati śitibhāvaṃ//
atha khalu bhikṣavas tathāgato dhṛtarāṣṭrasya mahārājasyāntikāt tatpātraṃ
pratigṛhñite sma/anukampām upādāya/pratigṛhya ca virūḍhakaṃ mahārājaṃ
gāthayādhyabhāṣata/

- (3) dadāsi yas tvaṃ pariśuddhabājanaṃ viśuddhacittāya tathāgatāya/
bhaviṣyasi tvaṃ khalu śuddhacittaḥ praśaṃsito devamanuṣyaloke//
atha khalu bhikṣavas tathāgato virūḍhakasya mahārājasyāntikāt tatpātraṃ
pratigṛhñite sma/anukampām upādāya/pratigṛhya ca virūpākṣaṃ mahārājaṃ
gāthayādhyabhāṣata/

- (4) achidraśīlasya tathāgatasya achidravṛttasya achidrabhājanaṃ/
achidracittaḥ pradadāsi śraddhayā achidra te bheṣyati puṇyadakṣiṇā//
pratigṛhñite sma bhikṣavas tathāgato virūpākṣasya mahārājasyāntikāt
tatpātraṃ anukampām upādāya/pratigṛhya caikaṃ pātram adhiṭṭhati
sma/adhimuktibalena//tasyāṃ ca velāyāṃ idam udānam udānayaṭi sma/

- (5) dattāni pātrāṇi pure bhava mayā phalapūritā premanīyā ca kṛtvā/
tenemi pātrāś caturaḥ susaṃsthitā dadanti devāś caturo maharddhikāḥ//

(II a) tatredam ucyate/

- (1) sa saptarātraṃ varabodhiṃkṣaṃ saṃprekṣya dhīraḥ paramārthadarśi/
ṣaḍbhiḥ prakāraiḥ pravikampya corvīm abhyutthitaḥ siṃhagatir nṛsiṃhaḥ//
(2) samanta nāgendra vilambagāmī krameṇa tārāyaṇamūlam etya/
upāviśan meruvad aprakampyo dhyānaṃ samādhiṃ ca muni pradadhyau//
(3) tasmiṃś ca kālē trapuṣaś ca bhalliko bhrātṛdvayaṃ vaṇijagaṇena sārddhaṃ/
śakaṭāni te pañca dhanena pūrṇā saṃpuṣpita sālavane praviṣṭāḥ//
(4) maharṣitejena ca akṣamātraṃ cakrāṇi bhūmau viviśuḥ kṣaṇena/
tām tādṛśiṃ prekṣya ca te avasthām mahadbhayaṃ vaṇijagaṇasya jātaṃ//
(5) te khaḍgahastāḥ śaraśaktipāṇayo vane mṛgaṃ vā mṛgayan ka eṣa/
vikṣanta te śārada candravaktraṃ jinaṃ sahasrāmśum ivābhramuktaṃ//

- (6) prahīnakopā apanītadarpāḥ praṇamya mūrdhnā vimṛṣuḥ ka eṣa/
nabhastalād devata vāca bhāṣate buddho hy ayaṃ lokahitārthakārī//
- (7) rātrimdivā sapta na cānnapānaṃ anena bhuktaṃ karuṇātmakena/
yadicchathā ātmana kleśaśāntiṃ bhojethimaṃ bhāvitakāyacittaṃ//
- (8) 【386】 śabdaṃ ca te taṃ madhuraṃ nīśāmya vanditva kṛtvā ca jinaṃ pradakṣiṇaṃ/
prītās tatas te sahitaiḥ sahāyaiḥ jinasya piṇḍāya matiṃ pracakruḥ//o//

(II b) tena khalu bhikṣavaḥ samayena trapaṣabhallikānāṃ vaṇijāṃ pratyantakarvaṇe
goyūthaṃ prativasati sma//atha tā gāvas tasmin kāle tasmin samaye sarpimaṇḍaṃ
pradugdhā abhūvan//atha gopālās tat sarpimaṇḍaṃ ādāya yena trapaṣabhallikau vaṇijau
tenopasaṃkrāmann upasaṃkramyemāṃ prakṛtiṃ ārocayanti sma/yat khalu yūyaṃ
bhattā jāniyāta sarvās tā gāvaḥ sarpimaṇḍaṃ pradugdhāḥ/tat kim etat praśastam āhosvin
neti//

tatra lolupajātyā brāhmaṇā evaṃ āhuḥ/amaṅgalyam etad brāhmaṇānāṃ mahāyājño
yaṣṭavya iti//

tena khalu punar bhikṣavaḥ samayena trapaṣabhallikānāṃ vaṇijāṃ śikhaṇḍī nāma
brāhmaṇaḥ pūrvajātisālohitō brahmaloke pratyājāto 'bhūt/sa brāhmaṇarūpam
abhinirmāya tān vaṇijo gāthābhīr adhyābhāṣata/

- (1) yuṣmākaṃ praṇidhiḥ pūrve bodhiprāptas tathāgataḥ/
asmākaṃ bhojanaṃ bhuktvā dharmacakraṃ pravartayet//
- (2) sa caiṣa praṇidhiḥ pūrṇo bodhiprāptas tathāgataḥ/
āhāram upanāmyeta bhuktvā cakraṃ pravartayet//
- (3) sumaṅgalaṃ sunakṣatraṃ gavāṃ vaḥ sarpidohanaṃ/
puṇyakarmaṇas tasyaiṣa anubhāvo maharṣiṇaḥ//
- (4) evaṃ saṃcodya vaṇijaḥ śikhaṇḍī bhavanaṃ gataḥ/
udagramanasaḥ sarve babhūvus trapaṣāhvayāḥ//o//
- (5) kṣīraṃ yad āśic ca hi gosahasrā aśeṣatas taṃ samudānayaivā/
【387】 agraṃ ca tasmāt pariḡrhya ojaḥ sādheṃsu te bhojana gauraveṇa//
- (6) śaptaṃ(V. śataṃ) sahasraikapalasya mūlyaṃ yā ratnapātrī abhu(V. abhūc)
candranāmikā/
caukṣāṃ sudhautāṃ vimalāṃ ca kṛtvā samatīrthikāṃ pūriṣu bhojanena//
- (7) madhuṃ gr̥hītvā tatha ratnapātrīṃ tārāyaṇīmūlam upetya śāstuḥ/
pratigṛhṇa bhakte anugṛhṇa cāsmān idaṃ praṇītaṃ paribhuṅkṣva bhojyaṃ//

(II c) (8) anukampanārthāya ubhau ca bhrātṛnāṃ pūrvāsayaṃ jñātva ca bodhiprast
hitau/

- pratigṛhītvā paribhuṅji śāstā bhuktvā kṣipī pātri nabhastalesmiṃ//
- (9) subrahmanāmā ca hi devarājo jagrāha yas tāṃ vararatnapātrīṃ/
adhunāpy asau tāṃ khalu brahmaloke saṃpūjayaty anyasuraiḥ sahāyaḥ//o//

(IV) atha khalu tathāgatas tasyāṃ velāyāṃ teṣāṃ trapaṣabhallikānāṃ vaṇijānāṃ
imāṃ saṃharaṣaṇāṃ akārṣīt/

- (1) diśāṃ svastikaraṃ divyaṃ maṅgalyaṃ cārthasādhakaṃ/
arthā vaḥ sā (V. śā) satāṃ sarve bhavatvāśu pradakṣiṇā//
- (2) śrīr vo 'stu dakṣiṇe haste śrīr vo vāme pratiṣṭhitā/
śrīr vo 'stu sarvasāṅgeṣu māleḥ śīrasi sthitā//
- (3) dhanaīṣiṇāṃ prayātānāṃ vaṇijāṃ vai diśo daśaḥ/
utpadyantāṃ mahālābhāḥ te ca santu sukhodayaḥ//
[East]
- (1) kāryeṇa kenacid yena gacchathā pūrvikāṃ diśāṃ/
nakṣatrāṇi vaḥ pārentu ye tasyāṃ diśi saṃsthitā//
- (2) kṛttikā rohiṇi caiva mṛgaśīrārdra punarvasuḥ/
puṣyaś caiva tathāśleṣā ity eṣāṃ pūrvikādiśāṃ//
- (3) 【388】 ity ete sapta nakṣatrā lokapālā yaśasvinaḥ/
adhiṣṭhitā pūrvabhāge devā rakṣantu sarvataḥ//
- (4) teṣāṃ cādhipatī rājā dhṛtarāṣṭreti viśrutaḥ/
sa sarvagandharvapatiḥ sūryeṇa saha rakṣatu//
- (5) putrā pi tasya bahava ekanāmā vicakṣaṇāḥ/
aśītir daśa caikaś ca indranāmā mahābalāḥ//
- (6) te pi ca adhipārentu ārogyena śīvena ca/
pūrvasmin vai diśo bhāge aṣṭau devakumārikāḥ//
- (7) jayanti vijayanti ca siddhārthā aparājita/
nandottarā nandisenā nandinī nandavardhani//
- (8) tā pi va adhipārentu ārogyena śīvena ca/
pūrvasmin vai diśo bhāge cāpālaṃ nāma cetiyaṃ//
- (9) avustaṃ jinebhi jñātam arhantebhi ca tāyibhiḥ/
te pi va adhipārentu ārogyena śīvena ca//
- (10) kṣemāś ca vo diśaḥ santu mā ca vaḥ pāpam āgamat/
labdhārthāś ca nivartadhvaṃ sarvadevebhi rakṣitāḥ//
[South]
- (1) yena kenacit kṛtyena gacchethā dakṣiṇāṃ diśāṃ/
nakṣatrāṇi vaḥ pārentu ye tāṃ diśāṃ adhiṣṭhitā//
- (2) maghā ca dvau ca phālgunṇyau hastā citrā ca pañcamī/
svātīś caiva viśākhā ca eteṣāṃ dakṣiṇā diśāḥ//
- (3) ity ete sapta nakṣatrā lokapālā yaśasvinaḥ/
ādiṣṭā dakṣiṇe bhāge te vo rakṣantu sarvataḥ//
- (4) 【389】 teṣāṃ cādhipatī rājā virūḍhaka iti smṛtaḥ/

- sarvakumbhāṇḍādhīpatir yamena saha rakṣatu//
- (5) putrā pi tasya bahava ekanāmā vicakṣaṇāḥ/
aśītir daśa caikaś ca indranāmā mahābalāḥ//
- (6) te pi va adhipārentu ārogyena śivena ca/
dakṣiṇesmin diśo bhāge aṣṭau devakumārikāḥ//
- (7) śriyāmatī yaśamatī yaśaprāptā yaśodharā/
suutthitā supṛathamā suprabuddhā sukhāvahā//
- (8) tā pi va adhipārentu ārogyena śivena ca/
dakṣiṇesmin diśo bhāge padmanāmena cetikaṃ//
- (9) nityaṃ jvalitatejena divyaṃ sarvaprakāśitaṃ/
te pi va adhipārentu ārogyena śivena ca//
- (10) kṣemāś ca vo diśaḥ santu mā ca vaḥ pāpam āgamat/
labdhārthāś ca nivartadhvaṃ sarvadevebhi rakṣitāḥ//
[West]
- (1) yena kenacit kṛtyena gacchethā paścimāṃ diśaṃ/
nakṣatrāṇi vaḥ pārentu ye tām diśaṃ adhiṣṭhitā//
- (2) anurādhā ca jyeṣṭhā ca mūlā ca dṛḍhavīryatā/
dvāv āṣāḍhe abhijic ca śravaṇo bhavati saptamaḥ//
- (3) ity ete sapta nakṣatrā lokapālā yaśasvinaḥ/
ādiṣṭā paścime bhāge te vo rakṣantu sarvadā//
- (4) teṣāṃ cādhipatī rājā virūpākṣeti taṃ viduḥ/
sa sarvanāgādhipatir varuṇena saha rakṣatu//
- (5) 【390】 putrā pi tasya bahava ekanāmā vicakṣaṇāḥ/
aśītir daśa caikaś ca indranāmā mahābalāḥ//
- (6) te pi va adhipārentu ārogyena śivena ca/
paścimesmin diśo bhāge aṣṭau devakumārikāḥ//
- (7) alambuśā miśrakeśī puṇḍarikā tathāruṇā/
ekādaśā navamikā śītā kṛṣṇā ca draupadi//
- (8) tā pi va adhipārentu ārogyena śivena ca/
paścimesmin diśo bhāge aṣṭaṃgo nāma parvataḥ//
- (9) pratiṣṭhā candrasūryāṇāṃ aṣṭaṃ arthaṃ dadātu vaḥ/
so 'pi va adhipāletu ārogyena śivena ca//
- (10) kṣemāś ca vo diśaḥ santu mā ca vaḥ pāpam āgamat/
labdhārthāś ca nivartadhvaṃ sarvadevebhi rakṣitāḥ//
[North]
- (1) yena kenacit kṛtyena gacchethā uttarāṃ diśaṃ/
nakṣatrāṇi vaḥ pārentu ye tām diśaṃ adhiṣṭhitā//

- (2) dhañiṣṭhā śatabhiṣā caiva dve ca pūrvottarāpare/
revatī aśvinī caiva bharaṇī bhavati saptamī//
- (3) ity ete sapta nakṣatrā lokapālā yaśasvinah/
ādiṣṭā uttare bhāge te vo rakṣantu sarvadā//
- (4) teṣāṃ cādhipatī rājā kuvero naravāhanah/
sarvayakṣāṇāṃ adhipatir māṇibhadreṇa saha rakṣatu//
- (5) putrā pi tasya bahava ekanāmā vicakṣaṇāḥ/
aśītir daśa caikaś ca indranāmā mahābalāḥ//
- (6) 【391】 te pi va adhipārentu ārogyena śivena ca/
uttareṣmin diśo bhāge aṣṭau devakumārikāḥ//
- (7) ilādevī surādevī pṛthvī padmāvati tathā/
upasthitā mahārājā āśā śraddhā hiri śirī//
- (8) tā pi va adhipārentu ārogyena śivena ca/
uttareṣmin diśo bhāge parvato gandhamādanah//
- (9) āvāso yakṣabhūtānāṃ citrakūṭah sudarśanaḥ/
te pi va adhipārentu ārogyena śivena ca//
- (10) kṣemāś ca vo diśah santu mā ca vaḥ pāpam āgamat/
labdhārthāś ca nivartadhvaṃ sarvadevebhi rakṣitāḥ//
[Recapitulation]
- (1) aṣṭāviṃśati nakṣatrā sapta sapta caturdiśaṃ/
dvātriṃśad devakanyāś ca aṣṭāv aṣṭau caturdiśaṃ//
- (2) aṣṭau śramaṇā (cāṣṭau) brāhmaṇā (aṣṭau) janapadeṣu naigamāḥ/
aṣṭau devāḥ saindrakāś te vo rakṣantu sarvataḥ// //
- (3) svasti vo gacchatāṃ bhotu svasti bhotu nivartatāṃ/
svasti paśyata vai jñātiṃ svasti paśyantu jñātayaḥ//
- (4) sendrā yakṣā mahārājā arhantam anukampitāḥ/
sarvatra svasti gacchadhvaṃ prāpsyadhvaṃ amṛtaṃ śivaṃ//o//
- (VI) (1) saṃrakṣitā brāhmaṇa vāsavena vimukticitaiś ca anāśravaiś ca/
nāgaiś ca yakṣaiś ca sadānukampitāḥ pāletha āyuh śaradāṃ śataṃ samaṃ//
- (2) pradakṣiṇāṃ dakṣiṇalokanāthaḥ teṣāṃ diśaiśa 'pratimo vināyakaḥ/
anena yūyaṃ kuśalena karmaṇā madhusaṃbhavā nāma jinā bhaviṣyatha//
- (3) 【392】 prathamād idaṃ lokavināyakasya asaṅgato vyākaraṇaṃ jinasya/
paścād anantā bahubodhisattvā ye vyākṛtā bodhayi no vivartyāḥ//
- (III) (1) śrutvā imaṃ vyākaraṇaṃ jinasya udagracittā paramāya prītyā tau bhrātarau
sārdhaṃ sahāyakaiś taiḥ buddhaṃ ca dharmāṃ śaraṇaṃ prasannaḥ//iti//
//iti śrīlālitavistare trapaṣabhallikaparivarto nāma caturviṃśatitamo 'dhyāyāḥ//

◆ (12) Lalitavistara (The Tibetan Tripitaka [Derge Ed.], Taipei Edition, Vol. X, pp.149-151 [363, line 6 – 373, line 7]) ※ローマ字転写はワイリー方式による。

(I) 【363, line 6】 zhag bdun pa bdun pa'i tshe ni de bzhin gshegs pa shing sgrol rgyu'i drung du bzhugs so/de'i tshe byang phyogs pa'i tshong ba ga gon dang bzang po zhes bya ba mkhas pa gsal ba spun gnyis rnyed pa chen po rnyed nas/zong rnam pa mang po thogs te/'gron pa phal po che dang/shing rta shin tu gang ba lnga brgya dang lhan cig tu lho phyogs nas byang phyogs su dong ngo/de gnyis la glang bu cang shes legs skyes dang grags pa zhes bya ba gnyis yod do/de gnyis la thogs pa'i 'jigs pa med de gang du glang bu gzhan mi thar ba der de gnyis gtong ngo/gang du mdun rol na 'jigs pa yod 【364】 pa der de gnyis phur pa la btags pa bzhin du 'dug go/de gnyis la lcag gis mi 'ju'i me tog ud pal spar gang ngam/sna ma'i me tog gi phreng bas de gnyis ded do//shing sgrol rgyu dang nye ba zhig tu shing 'o ma can gyi nags na gnas pa'i lha mos byin gyi rlabs kyis byin gyis brlabs pas/de dag gi shing rta de dag thams cad mi 'gro ste/'breng ba la sogs pa shing rta'i cha rkyen thams cad kyang chad grugs so//shing rta'i 'phang lo rnams kyang lte ba la thug par sa'i nang du nub ste/thams cad kyis rab tu bsgrims kyang shing rta de dag 'gro bar ma gyur nas/kha cig ngo mtshar dang skrag par gyur te/shing rta 'di dag thang la yang thogs par gyur ba 'di la rgyu ni ci zhig yod/'di'i 'gyur ba ni ci zhig yin snyam nas/de dag gis glang bu legs skyes dang grags pa de gnyis 'dren du bcug ste/me tog ud pal spar gang dang/sna ma'i me tog gi phreng bas bdas kyang 'gro bar ma gyur nas de dag 'di snyam du sems te/gang gi phyr 'di gnyis kyang mi 'gro ba las mdun na 'jigs pa 'ga' zhig 'byung du gdon mi za 'o snyam nas/de dag gis sa 'khru ba rta pa dag sngar btang ngo/sa 'khru ba rta pa rnams slar log nas 'jigs pa ci yang med ces smras so/lha mo des kyang rang gi gzugs bstan nas ma 'jigs shig ces dbugs phyung ngo/glang bu de gnyis kyis de bshin gshegs pa ga la ba de logs su shing rta drangs pa dang/de dag gis de bshin gshegs pa me ltar rab tu 'bar ba skyes bu chen po'i mtshan sum cu rtsa gnyis kyi mtshan gyis legs par brgyan pa/nyi ma shar nas ring po ram lo na pa lta bu dpal gyis 'bar ba mthong ngo/mthong nas kyang de dag ngo mtshar du gyur te/'di ni ci zhig tshangs pa 'dir phyin tam/'on te lha'i dbang po brgya byin nam/'on te rnam thos kyi bu 'am/'on te nyi ma dang zla ba 'am/'on te ri'i lha 'ga' zhig gam/rlung gi lha 'ga' zhig snyem mo/de nas de bzhin gshegs pas na bza' ngur smrig rnams bstan to/de nas de dag gis ngur smrig bgos pa 'di ni rab tu byung ba yin gyis bdag cag 'jigs pa med do zhes smras te//de dag 【365】 dad pa thob nas yang phan tshun du smras pa/rab tu byung ba 'di ni dus su za ba yin na/cung zad ci yod/smras pa/sbrang rtsi dang/skyo ma dang/bu ram shing bshus pa yod do//de dag gis sbrang rtsi dang/skyo ma dang/bu ram shing bshus pa kyher nas/de bzhin gshegs pa ga la ba der dong ste phyin pa dang/de bzhin gshegs pa'i zhabs la mgo pos phyag 'tshal te/lan gsum bskor ba byas nas phyogs gcig tu 'khod do//phyogs gcig tu 'khod nas kyang de dag gis de bzhin gshegs pa la 'di skad ces gsol to/bcom ldan 'das bdag cag la thugs brtse bar dgongs te spyang gzig 'di bzhes su gsol/

(II) dge slong dag de nas de bzhin gshegs pa 'di snyam du dgongs te/bdag gis lag pas 'di blangs na ni ma legs na sngon gyi yang dag par rdzogs pa'i sangs rgyas rnams kyis snod ji lta bus bzhes snyam nas mkhyen pa 'jug par gyur to//dge slong dag de lta de bzhin gshegs pa'i skabs kyis dus la bab par rig nas skad cig de nyid la phyogs bzhi nas rgyal po chen po bzhi gser gyi lhung bzed bzhi thogs te/lhags nas de bzhin gshegs pa la bcom ldan 'das bdag cag la thugs brtse bar dgongs te/gser gyi lhung bzed bzhi po 'di dag bzhes su gsol zhes phul lo//de dag dge sbyong gi cha ma yin par dgongs nas/de bzhin gshegs pas ma bzhes so/de bzhin du dngul gyi bzhi dang/baidūrya'i dang/shel dang/spug dang/rdo'i snying po las byas pa bzhi bzhi dang/rin po che thams cad las byas pa'i lhung bzed bzhi thogs te/de bzhin gshegs pa la phul na yang dge sbyong gi cha ma yin par dgongs te/de bzhin gshegs pas ma bzhes so//dge slong dag de nas de bzhin gshegs pas yang 'di snyam du dgongs te/sngon gyi de bzhin gshegs pa rnams kyis lhung bzed rnam pa ci 'dra ba dag gis bzhes snyam dgongs na/rdo'i lhung bzed rnams kyis bzhes par mkhyen nas/de bzhin gshegs pas de lta bu'i thugs bskyed pa dang/de nas rgyal po chen po rnam thos kyis bus rgyal po chen po gzhan gsum la 【366】 smras pa/grogs po dag sngon po'i ris kyis lha'i bu rnams kyis bdag la rdo'i lhung bzed bzhi byin pa dang/de la bdag gis 'di snyam du bsams te/'di spyad par bya'o snyam pa dang/de nas sngon po'i ris kyis lha'i bu rnam par snang byed ces bya ba des bdag la 'di skad ces smras so/kye snod 'di dag spyad par ma bya bar// 'di dag chongs shig mchod rten grags par 'gyur//sh'a kya thub ces bya ba'i rgyal ba 'byung//de la lhung bzed 'di dag dbul ba gyis//grogs po dag gis sh'a kya thub pa la//snod dbul ba yi dus dang tshod la bab//glu dbyangs dag dang sil snyan sgra phyung ste//mchod pa byas nas lhung bzed dbul bar bya//snod de chos kyis rang bzhin mi shigs pa/snod 'di rdo ba'i ran bzhin bzhes su rung//gzhan gyis blang bar bzod pa ma yin gyis//da ni bdag cag de dag len du 'dong//de nas rgyal po chen po bzhis rang gi gnyen dang 'khor du bcas te me tog dang//bdug pa dang/spos dang/phreng pa dang/byug pa dang/sil snyan dang/pheg rdob pa dang/glu dbyangs len cing rang rang gi lag tu lhung bzed de dag thogs nas/de bzhin gshegs pa ga la ba der song ste phyin nas/de bzhin gshegs pa la mchod pa byas te/lhung bzed de dag lha'i me tog gis bkang nas de bzhin gshegs pa la phul lo//dge slong dag de nas de bzhin gshegs pa'di snyam du dgongs te/rgyal po chen po dad pa dang ldan pa bzhi po 'di dag gis bdag la rdo'i lhung bzed bzhi phul na/bdag la ni bzhir mi rung la/ji ste gcig gi blangs na ni gsum yang mi dga' bar 'gyur na/bdag gis lhung bzed bzhi po 'di dag blangs te lhung bzed gcig tu byin gyis brlab bo snyam mo/dge slong dag de nas de bzhin gshegs pas phyag gyas pa brkyang ste/ rgyal po chen po rnam thos kyis bu la tshigs su bcad pas bka' stsal pa/ bde bar gshegs la lhung bzed phul cig dang/ /khyod ni theg pa mchog gi snod du 'gyur/ /nga 'dra dag la lhung bzed phul ba ni/

/dran dang blo gros nams kyang nyams mi 'gyur/
/dge slong dag de nas de bzhin gshegs pas 【367】 thugs brtse bar dgongs te/rgyal po chen
po rnam thos kyi bu las lhung bzed bzhes so/
/bzhes nas kyang rgyal po chen po yul 'khor srung la tshigs su bcad pas bka' stsal pa/
gang zhig de bzhin gshegs la lhung bzed phul/
/nams kyang dran dang shes rab nyams mi 'gyur/
/bsil dngos go 'phang sangs rgyas thob par du/
/bde bas bde bar dus rnams zad par byed/
/dge slong dag de nas de bzhin gshegs pas thugs brtse bar dgongs te/rgyal po chen po yul
'khor srung las lhung bzed bzhes so/
/bzhes nas kyang rgyal po chen po 'phags skyes po la tshigs su bcad pas bka' stsal pa/
rnam par dag sems de bzhin gshegs pa la/
/khyod kyis yongs dag lhung bzed phul cig dang/
/khyod kyis sems ni myur du dag par 'gyur/
/lha mi 'jig rten dag na bsngags par 'os/
/dge slong dag de nas de bzhin gshegs pas thugs brtse bar dgongs te/rgyal po chen po
'phags skyes po las lhung bzed bzhes so//
bzhes nas kyang rgyal po chen po mig mi bzang la tshigs su bcad pas bka' stsal pa/
skyon med sems dang dad pas skyon med snod/
/de bzhin gshegs pa tshul khrims skyon med cing/
/tshul skyon med la rab tu phul cig dang/
/khyod kyi sbyin pa bsod nams skyon med 'gyur/
/dge slong dag de nas de bzhin gshegs pas thugs brtse bar dgongs te/rgyal po chen po mig
mi bzang las lhung bzed bzhes so//bzhes nas kyang mos pa'i stobs kyi lhung bzed gcig tu
byin gyis brlabs te/de'i tshe ched du brjod pa 'di ched du brjod do/nga yis sngon gyi srid
par snod kyi rnams/bzang byas 'bras bus rab tu bkang ste byin/de nas lhung bzed dbyibs
legs bzhi po 'di//rdzu 'phrul chen po'i lha bzhi rnams kyis byin//

(II a) de la 'di skad ces bya ste//

- (1) /brtan pa dam pa'i don de dgongs pa de/
/zhag bdun byang chub shing mchog gzigs nas ni/
/seng ge'i stabs 'dra mi yi seng ge de/
/sa ni rnam pa drug tu bskyod nas bzhengs/
(2) /glang po'i dbang ltar kun tu dal gyis 【368】 gshegs/
/rim gyis sgrol rgyu'i shing gi drung byon nas/
/lhun po lta bur gyo ba mi mnga' bzhugs/
/thub pa bsam gtan ting nge 'dzin rnams dgongs/
(3) /de yi tshe na ga gon bzang po spun/

- /gnyis dang tshong pa'i tshogs dang shing rta ni/
 /nor gyis gang ba dag dang lhan cig tu/
 /s'a la'i me tog nags tshal rgyas par zhugs/
 (4) /drang srong chen po'i gzi yis skad cig tu/
 /srog shing thug par 'phang lo sa nang nub/
 /de dag de 'dra ba yi gnas mthong nas/
 /tshong ba'i tshogs ni 'jigs pa chen po skyes/
 (5) /de dag ral gri mda' dang mdung thung thogs/
 /nags na ri dgas bzhin du su zhes tshol/
 /sprin med 'od zer stong ldan 'dra ba'i rgyal/
 /zhal ras ston gyi zla ba 'dra ba mthong/
 (6) /khro ba spangs shing rgyags pa bsal nas su/
 /mgo bos phyag 'tshal 'di ni su zhes dpyod/
 /mkha' las lha yis 'di skad tshig smras te/
 /'di ni sangs rgyas 'jig rten phan don mdzad/
 (7) /nyin bdun mtshan bdun bza' dang btung ba dag/
 /thugs rje'i bdag nyid 'di ni ma gsol to/
 /gal te bdag gi nyon mongs zhi 'dod na/
 /sku dang thugs bsgoms 'di la bshos gsol cig/
 (8) /de dag gis ni sgra snyan de thos nas/
 /rgyal la phyag 'tshal bskor ba byas nas ni/
 /dga' nas de dag grogs dang lhan cig tu/
 /rgyal ba bshos gsol bar ni gros bcad do/
 (II b) dge slong dag de'i tshe tshong pa ga gon dang bzang po gnyis kyi ba'i khyu mtha'
 'khob kyi 'or zhig na gnas so//de nas de'i tshe ba de dag bzhos nas mar gyi snying khu
 byung bar gyur to//de nas ba lang rdzi de dag gis mar gyi snying khu de khyer nas//tshong
 pa ga gon dang bzang po ga la ba der song ste phyin nas/de dag gis tshul smos te/btsun
 pa dag mkhyen par mdzad du gsol/khyed kyi ba thams cad ni bzhos na/mar gyi snying khu
 byung na 'di ci dge ba zhig lags sam/'on te ma lags/de na bram ze zas la brkam pa'i rang
 bzhin can dag 'di skad ces 'di ni dge ba ma yin te/bram ze rnams la mchod sbyin chen po
 bya dgos so zhes 'dzer to//dge slong dag de'i tshe tshong pa ga 【369】 gon dang bzang po
 dag gi tshe rabs snga ma'i snag gi gnyen mtshams bram ze rma bya zhes bya ba tshangs
 pa'i 'jig rten du skyes par gyur ba des bram ze'i gzugs su sprul nas/tshong pa de dag la
 tshigs su bcad de smras pa/
 (1) /khyod kyis sngon ni smon btab pa/
 /byang chub brnyes nas de bzhin gshegs/
 /bdag cag rnams kyi bshos gsol te/

- /chos kyi 'khor lo bskor bar shog/
 (2) /smon lam de ni rdzogs zin gyis/
 /byang chub brnyes pa de bzhin gshegs/
 /de la zhal zas phul cig dang/
 /gsol nas 'khor lo bskor bar 'gyur/
 (3) /khyed kyi ba mar snying khu byung/
 /shin tu bkra shis skar ma bzang/
 /drang srong chen po de yi ni/
 /bsod nams las kyi mthu 'di 'o/
 (4) /de ltar tshong pa bskul nas ni/
 /rma bya rang gi gnas su song/
 /ga gon zhes ni bya la sogs/
 /thams cad yid ni mgu bar gyur/
 (5) /ba stong 'o ma ji snyed yod pa dag/
 /de kun ma lus par ni bsdus nas su/
 /de yi steng nas pris ma bzham byas te/
 /de dag rab tu gus par zhal zas sbyor/
 (6) /rin chen gzhong pa tshim byed ces bya ba/
 /srang gcig la yang 'bum phrag gcig ri ba/
 /gtsang mar rab bkrus dri ma med byas nas/
 /zhal zas kyis ni kha da chad du bkang/
 (7) /sbrang rtsi dang ni rin chen gzhong thogs te/
 /sgrol rgyu'i shing gi drung song ston pa la/
 /btsun pa bzhes te bdag cag sman yang thogs/
 /zhal zas gya nom pa 'di mnabs su gsol/
 (II c) (8) /spun gnyis po la thugs brtse mdzad pa dang/
 /byang chub zhugs pa'i sngon gyi bsam mkhyen nas/
 /ston pa bzhes pa mdzad de zhal zas gsol/
 /gsol nas gzhong pa nam mkha'i dkyil du bor/
 (9) /lha yi bu pho rab tshangs zhes bya ba/
 /de yis rin chen gzhong pa mchog de blangs/
 /des de da dung tshangs pa'i 'jig rten na/
 /lha gzhan grogs dang lhan cig mchod pa byed/
 (IV) de nas de'i tshe de bzhin gshegs pas tshong pa ga gon dang bzang po de dag la 'di
 dag gis rab tu dga' bar mdzad do//
 (1) /lha yi bkra shis don sgrub cing/
 /phyogs rnams bkra shis byed pa des/

- /khyed kyi don rnams grub gyur cig/
 / 【370】 thams cad myur du 'thun par shog/
 (2) /phreng ba mgo la 'dug pa ltar/
 /lag pa gyas na dpal yod shog/
 /gyon na 'ang dpal ni gnas gyur cig/
 /yan lag kun na 'ang dpal yod shog/
 (3) /tshong pa dag ni nor tshol zhing/
 /phyogs bcu dag tu 'gro ba rnams/
 /rnyed pa chen po rnyed gyur cing/
 /de dag bde ba skyed par shog/
 [East]
 (1) /dgos pa la la gang gi phyir/
 /shar phyogs su ni 'gro ba na/
 /gang dag phyogs der gnas pa yi/
 /rgyu skar khyed la skyong gyur cig/
 (2) /smin drug dang ni smar ma dang/
 /mgo dang lag dang nab so dang/
 /rgyal dang skag ces bya ba ste/
 /de dag rnams ni shar phyogs pa/
 (3) /rgyu skar bdun bo de dag ni/
 /'jig rten skyong ba grags ldan pa/
 /shar phyogs logs na yod ces bstan/
 /de dag khyed la kun tu srungs/
 (4) /de dag bdag po rgyal po ni/
 /yul 'khor srung zhes grags pa ste/
 /de ni dri za kun gyi bdag/
 /nyi ma lhan cig srung bar shog/
 (5) /de la bu ni mang yod la/
 /mkhas shing ming yang 'thun pa ste/
 /dgu bcu rtsa gcig zad par yang/
 /dbang bo zhes bya stobs po che/
 (6) /de rnams khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong gyur cig/
 /shar phyogs logs kyi phyogs cha na/
 /lha mo gzhon nu brgyad yod de//
 (7) /rgyal dang rnam par rgyal ma dang/
 /don grub ma dang mi 'pham dang/

- /dga' mchog ma dang dga' sde dang/
 /dga' can ma dang dga' 'phel ma/
 (8) /de dag khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong bar shog/
 /shar phyogs logs kyi phyogs cha na/
 /gzhi 'dzin zhes bya'i mchod rten yod/
 (9) /rgyal ba skyob pa dgra bcom pa/
 /de rnams kyis ni bzhugs shing mkhyen/
 /de yang khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong gyur cig/
 (10) /phyogs na khyed cag bde bar shog/
 /khyed cag sdig par ma gyur cig/
 /lha rnams kun gyis rab bsrungs nas/
 /nor rnams rnyed de ldog par shog/
 [South]
 (1) /dgos pa la la gang gi phyir/
 /lho phyogs su ni 'gro ba na/
 /gang dag phyogs der gnas pa yi/
 /rgyu skar khyed la skyong gyur cig/
 (2) /mchu dang gre dang dbo dang ni/
 /me bzhi nag pa lnga pa 【371】 yin/
 /sa ri dang ni sa ga ste/
 /de dag rnams ni lho phyogs pa/
 (3) /rgyu skar bdun po de dag ni/
 /'jig rten skyong ba grags ldan pa/
 /lho phyogs logs na yod ces bstan/
 /de dag khyed la kun tu srungs/
 (4) /de dag bdag po rgyal po ni/
 /'phags skyes po zhes bya bar brjod/
 /de ni grul bum kun gyi bdag/
 /gshin rje lhan cig srung bar shog/
 (5) /de la bu ni mang yod la/
 /mkhas shing ming yang 'thun pa ste/
 /dgu bcu rtsa gcig zad par yang/
 /dbang po zhes bya stobs po che/
 (6) /de rnams khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong gyur cig/

- /lho phyogs logs kyi phyogs cha na/
 /lha mo gzhon nu brgyad yod de/
 (7) /dpal ldan ma dang grags ldan ma/
 /grags pa 'thob dang grags 'dzin dang/
 /legs par langs dang rab snga dang/
 /legs par sad dang bde sgrub ma/
 (8) /de dag khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong bar shog/
 /lho phyogs logs kyi phyogs cha na/
 /pad ma zhes bya'i mchod rten yod/
 (9) /rtag tu gzi brjid kyis kyang 'bar/
 /rtag tu thams cad gsal byed pa/
 /de yang khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong gyur cig/
 (10) /phyogs na khyed cag bde bar shog/
 /khyed cag sdig par ma gyur cig/
 /lha rnams kun gyis rab bsrungs nas/
 /nor rnams rnyed de ldog par shog/
 [West]
 (1) /dgos pa la la gang gi phyir/
 /nub phyogs su ni 'gro ba na/
 /gang dag phyogs der gnas pa yi/
 /rgyu skar khyed la skyong gyur cig/
 (2) /lha mtshams dang ni snron dang yang/
 /brtson 'grus brtan ldan snrums dang ni/
 /chu stod chu smad byi bzhin dang/
 /gro bzhin de ni bdun pa yin/
 /de dag rnams ni nub phyogs pa/ * この行（「以上が西方の星宿たち」）は剩句。
 (3) /rgyu skar bdun po de dag ni/
 /'jig rten skyong ba grags ldan pa/
 /nub phyogs logs na yod ces bstan/
 /de dag khyed la kun tu srungs/
 (4) /de dag bdag po rgyal po ni/
 /mig mi bzang zhes bya bar shes/
 /de ni klu rnams kun gyi bdag/
 /chu lha lhan cig srung bar shog/
 (5) /de la bu ni mang yod la/

- /mkhas shing ming yang 'thun pa ste/
 /【372】 dgu bcu rtsa gcig zad par yang/
 /dbang bo zhes bya stobs po che/
 (6) /de dag khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong gyur cig/
 /nub phyogs logs kyi phyogs cha na/
 /lha mo gzhon nu brgyad yod de/
 (7) /rna cha skra 'dres ma dang ni/
 /pad ma dkar dang skya reng dang/
 /cha med gcig dang dgu ba dang/
 /rol dang gnag dang stabs myur srid/
 (8) /de dag khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong bar shog/
 /nub phyogs logs kyi phyogs cha na/
 /nub ces bya ba'i ri bo yod/
 (9) /nyi ma zla ba rnams kyang gnas/
 /nub pa'ang khyed la nor sbyin gyur/
 /de yang khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong gyur cig/
 (10) /phyogs na khyed cag bde bar shog/
 /khyed cag sdig par ma gyur cig/
 /lha rnams kun gyis rab bsrungs nas/
 /nor rnams rnyed de ldog par shog/
 [North]
 (1) /dgos pa la la gang gi phyir/
 /byang phyogs su ni 'gro ba na/
 /gang dag phyogs der gnas pa yi/
 /rgyu skar khyed la skyong gyur cig/
 (2) /mon gru dang ni mon gre dang/
 /khrums stod dang yang khrums smad dang/
 /nam gru dang ni tha skar dang/
 /bra nye ste ni bdun pa yin/
 (3) /rgyu skar bdun po de dag ni/
 /'jig rten skyong ba grags ldan pa/
 /byang phyogs logs na yod ces bstan/
 /de dag khyed la kun tu srungs/
 (4) /de dag bdag po rgyal po ni/

- /mi la zhon pa lus ngan po/
 /gnod sbyin kun gyi bdag po ste/
 /nor bzangs lhan cig srung bar shog/
 (5) /de la bu ni mang yod la/
 /mkhas shing ming yang 'thun pa ste/
 /dgu bcu rtsa gcig zad par yang/
 /dbang bo zhes bya stobs po che/
 (6) /de dag khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong gyur cig/
 /byang phyogs logs kyi phyogs cha na/
 /lha mo gzhon nu brgyad yod de/
 (7) /rab chags lha mo stong lha mo/
 /sa dang de bzhin pad ma can/
 /rgyal po che la nyer gnas dang/
 /re dang khrel yod dpal ldan ma/
 (8) /de dag khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong bar shog/
 /byang phyogs logs kyi phyogs cha na/
 /spos dang ldang ba'i ri bo yod/
 (9) /gnod sbyin 【373】 'byung po rnams kyi gnas/
 /rtse mo sna tshogs blta na sdug/
 /de yang khyed la nad med cing/
 /shis par lhag par skyong gyur cig/
 (10) /phyogs na khyed cag bde bar shog/
 /khyed cag sdig par ma gyur cig/
 /lha rnams kun gyis rab bsrungs nas/
 /nor rnams rnyed de ldog par shog/
 [Recapitulation]
 (1) rgyu skar nyi shu rtsa brgyad po/
 /phyogs bzhi dag na bdun bdun gnas/
 /lha yi bu mo sum cu gnyis/
 /phyogs bzhi dag na brgyad brgyad gnas/
 (2) /dge sbyong brgyad dang bram ze brgyad/
 /yul rnams na ni grong rngal brgyad/
 /dbang por bcas pa'i lha brgyad rnams/
 /de dag khyed la kun tu srungs/
 (3) /khyed cag 'gro na'ang bkra shis gyur/

- /ldog pa na yang bkra shis shog/
/gnyen la lta ba bkra shis gyur/
/gnyen gyis blta ba'ang bkra shis shog/
(4) /dbang bcas gnod sbyin rgya chen dang/
/dgra bcom pa dag snying brtse bas/
/thams cad du ni bkra shis dang/
/bdud rtsi shis pa thob par shog/
(VI) (1) /tshangs pa dang ni de bzhin nor rgyas dang/
/zag pa med pa rnam par grol rnams dang/
/klu dang gnod sbyin rtag tu snying brtses bsrung/
/ston brgyar mtshungs par tshe ni skyong bar shog/
(2) /rnam 'dren zla med 'jig rten mgon po yis/
/de dag 'thun par sbyin pa'i bsngags pa gsungs/
/khyed rnams kyi ni dge ba'i las 'di yis/
/sbrang rtsi 'byung zhes bya ba'i rgyal bar 'gyur/
(3) /'jig rten rnam par 'dren pa rgyal ba yis/
/lung bstan chags med 'di ni dang po yin/
/phyin chad byang chub sems dpa' mtha' yas mang/
/gang dag lung bstan de dag phyir mi ldog/
(III) (1) /rgyal bas lung bstan pa ni 'di thos nas/
/sems ni mgu zhing mchog tu dga' gyur te/
/de dag spun dang grogs dang lhan cig tu/
/de dag sangs rgyas chos la skyabs su dong/
/ga gon dang bzang po'i le'u zhes bya ba ste/nyi shu rtsa bzhi pa'o//

◆ (13) 方広大莊嚴經 (大正藏 3, 601c-602c) 唐地婆訶羅訳, AD. 683

(I) 仏告諸比丘。時北天竺国兄弟二人為衆商之主。一名帝履富婆。一名婆履。知慧明達極閑世法。其性調柔善能將導。興販貿易息利尤多。以五百乘車載珍寶還歸本國。是諸商侶有二調牛。一名善生。一号名称。巧識前路能知安危。示以優鉢羅花。不勞杖捶。余牛不濟方乃用之。行至乳林。路甚平正牛足拒地輪輾摧折。是時五百乘車躓於路傍。二牛為導亦不得進。加諸杖捶亦不能前。時諸商人心懷恐懼。共相謂言。二牛不行前途必有可怖之事。即遣馬騎執持器械前路而巡。彼使還已白商王言。我行前路無諸險難。何為二牛亦不能前。時護林神忽現其形語商人言。汝諸商人勿懷恐懼。汝於長夜流轉生死今得大利。所以者何。有仏世尊出現於世。初成正覺住此林中。不食已來四十九日。汝等應將種種飲食。而以上之。時二調牛便向仏行。而諸商人隨牛而往。行路不遠遙觀如來三十二相八十種好。身光赫然如日初出。既見仏已咸生希有恭敬之心。皆作是言。此為梵王。為是帝釈。為是四天王。為是日月天。為是山神。為是河神。世尊爾時微舉袈裟示彼商人。商人見已即知如來是出家人。心生歡喜。各相謂言。出家之法非時不食。宜應辦諸美味酥

蜜甘蔗乳糜之属及時奉施。諸商人等營辦種種飲食美味。至如来前右邊三匝却住一面。作如是言。世尊。哀愍我故受是微供。

(II) 仏告諸比丘。如来爾時將欲受彼商人之食。作是思惟。過去諸仏皆悉持鉢。我今當以何器而受斯食。作是念已。時四天王各持金鉢奉上如来。作如是言。惟願世尊用我此鉢受商人食。憐愍我故令於長夜獲大安樂。爾時世尊告四天王言。出家之法不合受汝如是金鉢。乃至展轉奉七宝鉢。皆悉不受。

是時北方毘沙門天王告余天王言。我念昔者有青身天。將四石鉢来与我等。復有一天。名曰遍光。来白我言。慎勿用此石鉢。宜応供養而作塔想。何以故。未来有仏出興於世。名釈迦牟尼。當以此鉢奉上彼仏。爾時毘沙門天王語余天王言。欲施石鉢今正是時。

四天王各還自宮。与諸眷属持彼石鉢。盛滿天花以香塗之。奏諸天樂供養石鉢。来詣仏所。各各以鉢奉上如来。而白仏言。世尊。惟願如来哀受我等所獻石鉢受商人食。令我長夜獲大安樂得成法器。憐愍我故。

爾時世尊作是念言。四大天王以淨信心而施我鉢。然我不合受持四鉢。若惟受一不受余三。而彼三王必生嫌恨。是故我今總受四王所獻之鉢。

爾時世尊受北方毘沙門天王鉢。而説偈言

汝奉善逝鉢 当得上乘器

我今受汝施 令汝具念惠

爾時世尊。受提頭賴吒天王鉢。而説偈言

以鉢施如来 念慧得增長

生生受快樂 速証仏菩提

爾時世尊。受毘婁博叉天王鉢。而説偈言

我以清淨心 受汝清淨鉢

令汝得清淨 人天所供養

爾時世尊。受毘婁勒叉天王鉢。而説偈言

如来戒無瑕 汝施無瑕鉢

汝心無瑕故 得報亦無瑕

爾時世尊受四天王鉢已。如是次第相重安置右手按之合成一器。四際分明。

如来爾時憶念過去。而説偈言

我昔以花盛滿鉢。奉施無量諸如来

是故今者四天王 施我堅牢清淨鉢

(II b) 仏告諸比丘。時彼商衆驅大群牛循路而行。於晨朝時牧人犍乳。凡所犍者化為醍醐。心生希有速將醍醐来白商主。今所犍乳不知何故悉為醍醐。為是吉祥為是不祥。我今未決。商衆之中有婆羅門。懷貪愛故云是不祥。応作大施。商主遠祖已生梵世。是時現身作婆羅門。於商衆中。說是偈言。

汝等往昔発弘誓 如来若証菩提已

我當以食奉獻仏 受我食已轉法輪

今者如来成正覺 汝之所願亦滿足

世尊應受汝美食 當轉無上大法輪
汝今擎乳得醍醐 由此大仙之威力
好辰善宿吉祥兆 是故一切皆吉祥
梵天演說此偈已 還隱其形返天上

仏告諸比丘。時諸商人聞此偈已皆大歡喜。即取醍醐選上粳米煮以為糜。和好香蜜盛以栴檀之鉢。詣多演林奉上如來白仏言。世尊。惟願哀愍受我此食。

(II c) 爾時世尊受商人食已。持彼栴檀之鉢擲致空中。其鉢栴檀一分價直百千珍寶。時有梵天。名曰善梵。接栴檀鉢還於梵宮起塔供養。其塔至今諸天香花供養不絕。

(IV) 爾時世尊呪願商人。而說偈言。

汝等所向皆吉祥 一切財寶悉充滿
吉祥遍汝左右手 總汝身形是吉祥
所求財寶自然至 以吉祥鬘為首飾
日月星宿諸天等 帝釈四王皆擁護
所去之處既吉祥 廻還亦復獲安樂

(VI) 以此施食之功德 當來得成無上道

名為末度三瞢仏 商人蒙記心歡喜

仏告諸比丘。如來最初為二商主及諸商人。而授記莚。

(III) 時諸商人聞授記已得未曾有。皆悉合掌作如是言。我從今者歸依如來。

◆ (14) 過去現在因果經 (大正藏 3, 643b-643c) 劉宋求那跋陀羅訳, AD. 444-453

(I) 即從座起。詣婆羅捺國。爾時有五百商人。二人為主。一名跋陀羅斯那。二名跋陀羅梨。行過曠野。時有天神。而語之言。有如來應供正遍知明行足善逝世間解無上士調御丈夫天人師仏世尊。出興於世。最上福田。汝今宜應最前設供。時彼商人。聞天語已。即答之曰。善哉如告。又問天言。世尊今者為在何許。天又報言。世尊不久當來至此。於是如來。與無量諸天。前後導從。到多謂婆跋利村。時彼商人。既見如來威相莊嚴。又見諸天前後圍繞。倍生歡喜。即以蜜麩。而奉上仏。

(II) 爾時世尊。心自思惟。過去諸仏。用鉢多羅。而以盛食。時四天王。知仏心念。各持一鉢。來至仏所。而以奉上。於是世尊。而自念言。我今若受一王鉢者。余王必當生於恨心。即便普受四王之鉢。累置掌上。按令成一。使四際現。

(IV) 爾時世尊。即便呪願。

今所布施。欲令食者。得充氣力。當令施者。
得色得力。得膽得喜。安快無病。終保年壽。
諸善鬼神。恒隨守護。飯食布施。斷三毒根。
將來當獲。三堅法報。聰明智慧。篤信仏法。
在在所生。正見不昧。現世之中。父母妻子。
親戚眷屬。皆悉熾盛。無諸災怪。不吉祥事。
門族之中。若有命過。墮惡道者。當令以今。

所施之福。還生人天。不起邪見。増進功德。

常得奉近。諸仏如来。得聞妙説。見諦得証。

祈願具足。爾時世尊。呪願訖已。即便受食。

(III)食既畢竟。澡漱洗鉢。即授商人三帰。一帰依仏。二帰依法。三帰依将来僧。

(VI)授三帰竟。因与之別。

◆ (15) 大唐西域記 (大正蔵51, 873a) 玄奘, AD. 646

(I) (V) (縛喝国)大城西北五十余里至提謂城。城北四十余里有波利城。城中各有一窠堵波。高余三丈。昔者如来初証仏果。起菩提樹方詣鹿園。時二長者遇被威光。隨其行路之資遂獻麝蜜。世尊為説人天之福。最初得聞五戒十善也。既聞法誨請所供養。如来遂授其髮爪焉。二長者將還本国請礼敬之儀式。如来以僧伽胝。方置布下。次鬱多羅僧。次僧却崎。又覆鉢。豎錫杖。如是次第為窠堵波。二人承命各還其城。擬儀聖旨式修崇建。斯則釈迦法中。最初窠堵波也。

◆ (16) 筆者による LV (二商人奉食の物語の部分) の和訳

(I) (成道後の) 第7週目に如来はターラーヤナ樹の根もとに住しておられた。

そのとき、北方出身のトラブシャとバツリカという名の二人の兄弟の知識あり知恵ある商人が種々の商品を持って大量の利益をあげて南の地方から北の地方へ向かって進んでいた。五百の車を荷で一杯にした大キャラヴァンを率いていた。

この二人にスジャータとキールティという名の育ちのよい2頭の役牛がいた。この2頭には道草を食う心配がなかった。他の役牛が牽かないときは、かれらが車につけられた。前方に畏怖すべきものがあるときは、かれらは杭に繋がれたかのように歩みを止めた。かれらは棒で御されず、一にぎりの青蓮華かジャスミンの花束 (*dāmaka*, garlanded, Edgerton II) で御されるのであった。

ターラーヤナ樹の近くで、クシーリカー森に住む神の神通力によって、かれら (商人たちの) すべての荷車が停止して動かなくなった。革ひもを始め荷車のすべての部品が切れ、壊れた。荷車の車輪はこしきの部分まで地中に埋まり、どんなに努力しても、荷車は動かなかった。

かれらは驚き、恐怖した。いったいこれは何が原因なのか。この変事は何なのか。こんな場所で荷車が停止するとは。かれらはかのスジャータとキールティ役牛を繋駕した。かれら2頭は一にぎりの青蓮華とジャスミンの花束とで御されたが、やはり動かなかった。

かれら商人は考えた。きっと前方に何か畏怖すべきものがあるに違いない。それでこの2頭も動かないのだ、と。かれらは前方へ騎馬の使いを派遣した。騎馬の使いは戻ってきて、報告した。何も畏怖すべきものはありません、と。

かの神が姿を現し、何も恐れることはないといって、安心させた。かの2頭の役牛も如来のいる方向に向かって荷車を牽きはじめた。

こうしてかれらは如来を見ることになった。火神のように輝き、32大人相を備え、昇る太陽のようにまばゆく輝く (如来) を。かれらは見て驚愕した。いったいこれは何だ。ブラフマーがここに現れたのか。それとも帝釈天か。それとも毘沙門か。それとも日月神か。それとも何

か山の神か。川の神か。

そのとき如来は茶褐色の衣を目だたせた。そこで、かれらはいった。これは出家者だ。茶褐色の衣を着ている。これには何も心配はない、と。かれらは信仰を抱いて、つぎのように言いあった。この出家者はまさに食事の時間を迎えようとしているであろう。なにかないか、と。かれらはいった。蜜の食べ物と皮を剥いだ砂糖きびがある、と。

かれらは蜜の食べ物と砂糖きびの皮を剥いだものを持って、如来のいるところに近づき、近づいて如来の両足を頭で礼拝し、3回右繞して、片隅に立った。片隅に立って、かれらは如来に次のようにいった。世尊よ、われらに慈悲を垂れ、この鉢の食べ物をお受けください、と。(II)比丘たちよ、そのとき如来につぎの考えが浮かんだ。私が両手で(食べ物を)受けることは、これはじつによろしくないことであろう。過去の如来・三藐三仏陀は何に受けたであろうか、と。鉢でであったと(如来は)了知した。

比丘たちよ、如来の食事時間であることを知った四大王が四方から直ちにやってきて、4つの金の鉢をもたらし、如来に差し出した。世尊よ、われらに慈悲を垂れ、この(4つの)金の鉢をお受けください。

それらは沙門にふさわないと考え、如来は受け取らなかった。同様のことが4つの銀製の、4つのるり製の、はり製の、珊瑚製の、めのう製の鉢について(起こった)。

(四大王は)あらゆる種類の宝石の4つの鉢をもたらし、如来に差し出したが、如来はそれらは沙門にとってふさわしくないと考え、受け取らなかった。

比丘たちよ、そのときまた如来につぎの考えが起こった。過去の如来・阿羅漢・三藐三仏陀はどんな種類の鉢で受けたか。石の鉢でであったことを了知した。こうした考えが如来に起こったのである。

(II a)このとき、毘沙門大王が他の3人の大王たちに語りかけた。卿らよ、かの4つの石の鉢が青身天子たちによってわれらに与えられているではないか。あのときわれらにつぎの考えが起こった。われらはこれで食事をしよう、と。そのとき、ヴァイローチャナという名の青身天子がわれらにつぎのようにいった。

(1)これらの容器で食べてはならぬ。塔廟と同じと思って護持しなさい(?)。

釈迦牟尼という名の勝者が現れるだろう。かれに鉢を差し出しなさい、と。

(2)卿らよ。いまこそ釈迦牟尼に容器を差し出すときである。

歌と楽器の声と音とともに、敬意を表して鉢を差し出そう。

(3)かれこそ法に叶う不壊の容器、この石の容器もまた不壊である(?)。

(かれこそこれを)受けることができる。他の者はそうでない。さあ、お受け頂くために行こうではないか。

そこで4人の大王は各自の民衆を伴い、花、焚香、粉香、華蔓、塗香、楽器、打楽器、演奏の音とともに、手に手に鉢を持って、如来のいますところに近づき、近づいて如来に敬意を表して、天華を満たしたかの鉢を如来に差し出した。

比丘たちよ、そのとき如来につぎの考えが起こった。じつにこれらの四天王は清らかな信仰心をもって私に4つの石の鉢を差し出そうとしている。だが4つの鉢は私にふさわしい。とは

いえ、一人の（鉢だけ）を受ければ、3人に不満が生じるだろう。私はこれらの4つの鉢を受けて、1つの鉢に変えたらどうだろう。

比丘たちよ。そこで如来は右の手を伸ばし、毘沙門大王に偈で語りかけた。

(1)善逝に容器を提供せよ。汝は最上の乗り物の器となるだろう（?）。

我等のような者たちに容器を提供するなら、記憶と思考は決して失われない。

比丘たちよ。そこで如来は慈悲心をもって毘沙門大王の手元から、かの鉢を受け取った。受け取ると、持国大王に偈で語りかけた。

(2)如来に容器を与えるもの、そのものの記憶と知恵は決して失われない。

幸福な時を幸福な（時）に続け、ついに寂静の段階を悟るにいたる。

比丘たちよ。そこで如来は慈悲心をもって持国大王の手元から、かの鉢を受け取った。受け取ると、増長大王に偈で語りかけた。

(3)清浄なる心をもつ如来に清浄なる容器を与える汝は

自らも清浄なる心を持つだろう。人天の世界において讃えられるであろう。

比丘たちよ。そこで如来は慈悲心をもって増長大王の手元から、かの鉢を受け取った。受け取ると、広目大王に偈で語りかけた。

(4)不壊の戒を持ち不壊の行ないをなす如来に不壊の容器を

不壊の心で信仰をもって与える汝は不壊の福德を持つものとなるであろう（?）。

比丘たちよ。如来は慈悲心をもって広目大王の手元から、かの鉢を受け取った。受け取ると、解脱の力によって1つの鉢に変えた。そのとき（如来は）つぎのウダーナを唱えた。

果実をつめて、魅力をそえて、私は前世で鉢を捧げた。

だから（いま）4つの鉢が整えられ、神通力ある4人の神が（私にそれを）提供する。

(II a)ここでつぎのようにいわれる。

(1)かれは7日の間、妙なる菩提樹を見て至高の真理を見る人となった。確信の人となった。

6種の相で地を震わせ、獅子の境涯に向かって人獅子として立ち上がった。

(2)この象王は悠然と辺りを歩き、次第にターラーヤナ樹の根方に向かって歩んだ。

メール山のごとくに揺るがぬさまで近づき、牟尼（ブッダ）は禅と三昧を实践した。

(3)そのときトラブシャとバツリカという二人の兄弟が商人の群れとともに

五（百）の荷車を財で満たして花咲くサーラの森に入った。

(4)大聖仙（ブッダ）の力によって瞬時に荷車は瞬く間に地にめり込んだ。

そんな状態をかれら（商人）は見た。商人の群れに大恐怖が生じた。

(5)かれらは剣を手にし、矢や槍をたずさえ、森に獣がいるのか、これは何かと探索した。

かれらは秋の月のごとき顔を見た。雲ひとつなく千の光線（を放つ太陽）のようなジナ（ブッダ）を。

(6)興奮は収まり、高ぶりは消えた。頭（を下げ）て礼拝し、かれは誰かといぶかった。

天空から神が言葉を発した。これはブッダ、世界の利と益を作るものである、と。

(7)慈悲の心をもつかれは7昼夜、水も食べ物も摂っていない。

もし汝らが自分の煩悩の鎮静を願うなら、心身をよく修めたかれに食事を捧げよ。

(8)かれらはこの甘美な言葉を聞いて、ジナに挨拶し、右繞し、

そして歓喜の心をもって、仲間とともにジナへの食べ物への心を起こした。

(II b)比丘たちよ、そのとき商人トラブシャとバツリカの牛の群れは村はずれ (*pratyanta*, on the border, Edgerton, II) の市場にいた。ところが牛たちはそのとき醍醐の乳を出したのである。そこで牧人たちがその醍醐を持って、商人トラブシャとバツリカがいるところに近づき、近づいて出来事を報告した。だんな方、あなた方は御承知ください。かの牛たちがみな醍醐の乳を出しました。いったいこれは吉兆でしょうか、そうでないでしょうか、と。

そのとき物欲旺盛なバラモンたちがつぎのようにいった。これは凶兆である。バラモンたちのために大規模な祭祀をおこなう必要がある、と。

そのときまた、比丘たちよ、商人トラブシャとバツリカたちと前世で親戚関係にあったシカンディンという名のバラモンが梵天世界に再生していた。かれはバラモンの姿をとってかの商人たちに偈で語りかけた。

(1)汝らは前世で願を起こした。如来が悟りを開いたら

(如来は) われらの食事を食べて、法輪を転じますように、と。

(2)いまやこの願は成就する。如来が悟りを開いたのだ。

食事をもたすがよい。これを召しあがって法輪を転じますように、と。

(3)汝らの牛が醍醐の乳を出したのは吉兆であり、よい星の印である。

この祥事は功德を積んだかの大仙人から生まれたものである。

(4)このように商人たちを励ますと、シカンディンは自分の住所へ帰っていった。

トラブシャの一行(?) はみな高揚した気持ちに満たされた。

(5)千の牛が出した乳を余さず集め、

そこから最上の滋養物を取って、かれらは敬意をこめて食べ物を作った。

(6)1パラ(重量の単位)あたり百千(金貨)の値がある、アブ・チャンドラと名づけられる
宝玉製の盆を拭き、清め、汚れをとって、食べ物で縁まで満たした。

(7)蜜と盆を持ち、師の(いる)ターラーヤナ樹の根方に行き、

食べ物をお受け下さい。われらに愛顧を垂れ給え。この極上の料理を召し上がって下さい。

(II c) (8)二人の兄弟への慈悲心から、またかれらが前世で菩提心を起こしたことを知って、
師は受け取って、食べた。食べ終えて盆を空中に投げた。

(9)スブラフマーという名の神がその優れた宝の盆を受け止めた。

いまなおかれはそれを梵天世界で他の神々とともに祀っている。

(IV)そのとき如来は商人トラブシャとバツリカにつぎのような祝福をおこなった。

(1)諸方において(汝らに)神の加護があれ。吉祥と事業の成就とがあれ。

汝らのすべての事業が思いどおりになれ。幸いが直ちに生まれよ。

(2)汝らの右の手に幸いあれ。汝らの左の手に幸いあれ。

汝らの身体のあらゆる部分に幸いあれ。頭に花輪が止まるように。

(3)財を求め十方に赴く商人たちに

大きな利得が生まれよ。それは幸せを生むものとなれ。

東

- (1)汝らがいかなる仕事で東に赴くとも、
その方角にある星宿は汝らを守れ。
- (2)クリッティカー、ローヒニー、ムリガシラス、アールドラー、プナルヴァス
プシュヤ、アーシュレーシャー。以上が東方の（星宿たち）。
- (3)以上の、栄光に満ちた世界守護者たる七星宿、
東方に住む神々はその辺りすべてにおいて（汝らを）を守れ。
- (4)かれらの主人たる王はドリタラーシュトラとして知られる⁴⁾。
かれは全ガンダルヴァの主人であり、スーリヤ神とともに（汝らを）守れ。
- (5)かれの息子はあまたおり、名前はみな同じで、目利きである。
（その数）80と10と1で、インドラという名で、大力をもつ。
- (6)かれらもまた健康と幸福で汝らを守れ。
東の方角に8人の乙女神がいる。
- (7)ジャヤンティー、ヴィジャヤンティー、シッダールター、アパラージター、
ナンドーッタラー、ナンディセーナー、ナンディニー、ナンダヴァルディニー。
- (8)彼女らもまた健康と幸福で汝らを守れ。
東の方角にチャーパーラという名の祀堂がある。
- (9)救済者たる、ジナらに住まわれ (*avusta*, inhabited, Edgerton, II), 阿羅漢らに知られる。
かれらもまた健康と幸福で汝らを守れ。
- (10)諸方は汝らにとって安全であれ。汝らに災厄は来てはならぬ。
仕事を成就して帰国せよ。あらゆる神に守られて。

南

- (1)汝らがいかなる仕事で南に赴くとも、
その方角にある星宿は汝らを守れ。
- (2)マガー、2つのパールグニー（前パールグニーと後パールグニー）、ハスター、第5にチ
トラー、スヴァーティ、ヴィシャーカー。以上が南方の（星宿たち）。
- (3)以上の、栄光に満ちた世界守護者たる七星宿、
南方に任じられたかれらはその辺りすべてにおいて汝らを守れ。
- (4)かれらの主人たる王はヴィルーダカとして記憶せらる。
全クンバーンダの主人であり、ヤマ神とともに（汝らを）守れ。
- (5)かれの息子はあまたおり、名前はみな同じで、目利きである。
（その数）80と10と1で、インドラという名で、大力をもつ。
- (6)かれらもまた健康と幸福で汝らを守れ。
南の方角に8人の乙女神がいる。
- (7)シュリヤーマティー、ヤシャマティー、ヤシャブラープター、ヤショードラー、
スウッティター、スプラタマー、スプラブッダー、スカーヴァハー。
- (8)彼女らもまた健康と幸福で汝らを守れ。

南方にパドマという名の祀堂がある。

- (9)常に燃える炎によって神々しく照らし出された（祀堂に住む神々），
かれらもまた健康と幸福で汝らを守れ。

- (10)諸方は汝らにとって安全であれ。汝らに災厄は来てはならぬ。
仕事を成就して帰国せよ。あらゆる神に守られて。

西

- (1)汝らがいかなる仕事で西に赴くとも，
その方角にある星宿は汝らを守れ。

- (2)アヌラーダー，ジェーシュター，固く勇あるものムラー（ムーラ），2つのアーシャーダ
（前アーシャーダと後アーシャーダ），アビジット。シュラヴァナは第7である。

- (3)以上の，栄光に満ちた世界守護者たる七星宿，
西方に任じられたかれらはその辺りすべてにおいて汝らを守れ。

- (4)かれらの主人たる王はヴィルーパークシャとして人々は知る。
かれは全ナーガの主人であり，ヴァルナ神とともに（汝らを）守れ。

- (5)かれの息子はあまたおり，名前はみな同じで，目利きである。
（その数）80と10と1で，インドラという名で，大力をもつ。

- (6)かれらもまた健康と幸福で汝らを守れ。
西の方角に8人の乙女神がいる。

- (7)アランブシャー，ミシュラケーシー，プンダリーカー，アルナー，
エーカーダシャー，ナヴァミカー，シーター，クリシュナー，ドラウパディ。

- (8)彼女らもまた健康と幸福で汝らを守れ。
西の方角にアシュタンガという名の山がある。

- (9)（そこに）住む者は日月神の8つの利益を汝らに与えよ。
かれらもまた健康と幸福で汝らを守れ。

- (10)諸方は汝らにとって安全であれ。汝らに災厄は来てはならぬ。
仕事を成就して帰国せよ。あらゆる神に守られて。

北

- (1)汝らがいかなる仕事で北に赴くとも，
その方角にある星宿は汝らを守れ。

- (2)ダニシュター，シャタビシャー，もう1組の前・後（前バドラパダーと後バドラパダー），
レーヴァティ，アシュヴィニー。バラニーは第7である。

- (3)以上の，栄光に満ちた世界守護者たる七星宿，
北方に任じられたかれらはその辺りすべてにおいて汝らを守れ。

- (4)かれらの主人たる王はクヴェーラ・ナラヴァーハナ。
全ヤクシャの主人であり，マーニバドラ神とともに（汝らを）守れ。

- (5)かれの息子はあまたおり，名前はみな同じで，目利きである。
（その数）80と10と1で，インドラという名で，大力をもつ。

(6)かれらもまた健康と幸福で汝らを守れ。

北の方角に8人の乙女神がいる。

(7)イラーデーヴィー、スラーデーヴィー、プリティヴィー、パドマーヴァティー、
ウパスティター、マハーラージャー、アーシャー、シュラッダー、ヒリー、シリー。

(8)彼女らもまた健康と幸福で汝らを守れ。

北の方角にガンダマダナ山がある。

(9)ヤクシャ神と精霊らの住み家、麗しきチトラクータ峰。

かれらもまた健康と幸福で汝らを守れ。

(10)諸方は汝らにとって安全であれ。汝らに災厄は来てはならぬ。

仕事を成就して帰国せよ。あらゆる神に守られて。

[要約]

(1)星宿は28ある。四方に7つずつある。

乙女神は32人いる。四方に8人ずついる。

(2)民衆のあいだにいる8人の沙門、(8人の)婆羅門、(8人の)ナイガマ神。

(天にいる)インドラ神を含む8人の神々。(かれらは)一切処において汝らを守れ。

(3)出発する汝らに幸いあれ。帰り行く(汝らに)幸いあれ。

幸いあれ、(汝らは)親族と再会せよ。幸いあれ、親族らは(汝らと)再会せよ。

(4)インドラと共なるヤクシャ、(四)大王、阿羅漢の愛顧を受けて、

すべての場所で幸せに進みゆけ。めでたき不死を獲得せよ。

(VI)(1)ブラフマー、ヴァーサヴァ(=インドラ)、解脱者、無漏者に守られよ。

ナーガ、ヤクシャに常にいつくしまれ、(汝らは)百秋に等しき齢を守れ。

(2)右繞されるにふさわしき世界の主、比類なき指導者(ブッダ)はかれらに告げた。

汝らはこの善き行いによってマドゥサンバヴァという名のジナになるであろう。

(3)これは世界の指導者ジナ(ブッダ)が染心を離れて最初におこなった授記である。

これからのち、悟りを得て退転せずと授記される数知れぬ多くの菩薩が(現れるだろう)。

(III)(1)ジナのこの授記を聞き、最高の喜びに心はずませ、

かの兄弟はかの仲間とともに清浄なる心をもってブッダと法に帰依した。

以上、聖なる『ラリタヴィスタラ』中のトラブシャ・パツリカの巻と名づける第24章が終わる。

4. 以下、四天王に関する部分については、cf. パーリ, DN, Mahāsamaya-suttanta (PTS, D ii, pp. 257-258), 漢訳長阿含経「大会経」の一節(大正蔵1, 79c-80a), 「大三摩惹経」の一節(大正蔵1, 258b-258c)。これらの経はブッダの法会にいかにも多くの神々が参集したかを説いており、多くの神々の名を列举している。いま(2002年1月)奈良のキトラ古墳で天文図や四方神図が発見されて話題になっている。LVの四方の守護神の考えと比較して興味深い。

内容の比較表（○は「存在する」を意味する。その他は右注参照。）

テーマ （文獻）	經典 MVG	五分律	四分律	JTN	修行本起經	中本起經	太子瑞応本起經	普曜經	MVT	仏本行集經	LV	LV（TIB）	方広大莊嚴經	過去現在因果經	大唐西域記	
ウツカラ	○			○					○							Ga＝瓜， Bz＝Bhadra？
商人の名	Ta Bh	離波 謂利	瓜優 波離	Ta Bh	提波 謂利	提波 謂利	提波 謂利	提波 謂利	Tr Bh	帝跋 梨富 迦沙	Tr Bh	Ga Bz	帝婆 履富 沙	跋陀 陀羅 斯梨 那	提波 謂利	Ta＝Tapassu ＝Tapussa Bh＝Bhalluka ＝Bhallika Tr＝Trapusa ＝Trapuṣa
牛（名）		車 牛					牛		Su Ki	調 牛	Su Ki	Su Ki	善名 生称			Su＝Sujāta Ki＝Kīrti(ka)
四天王	○	○	○	○			○	◎ 持	○	◎ 持	○ 毘	○ 毘	◎ 毘	○		◎＝四天王に對 する祝福を 含む
金銀の鉢									○	○	○	○	○			持＝持国天 毘＝毘沙門天 （重視される）
醍醐											○	○	○			
鉢を虚空へ								○			○	○	○			
シカンディ								○			○	○				
祝福加護		○	○				○	○	◎	○	◎	◎	○	○	○	◎＝四方呪願を 含む
成仏授記								○			○	○	○	○		
帰依	2	2	2	2	3	3	3	○	3	3	2	2	1	3		1＝帰依如来 2＝2 帰依
髮塔			○	○					○	○					○	

この外、四分律には「弥却の布髪物語」がある。大唐西域記には「塔の形式の教授」がある。